第一章　京都祇園祭の山鉾行事の近代資料

『補助金請願日誌 上』解説

村山　弘太郎

『補助金請願日誌 上』の概要とその筆者

本史料は大正十年（一九二一）から大正十三年（一九二三）にかけて、山鉾町が共同して清々講社や京都市へと、その修復金をはじめとする諸費用の補助を申請した際の一連の動向について日別に記録したものである。

形態は四ツ目綴じで装丁された袋綴じで、縦三四センチ、横一六・五センチである。元は袋綴じの表紙のみが付けられ二穴で綴じられていたものが、後年に厚紙の表紙および裏表紙が付けられ、四ツ目綴じの装丁に改められている。最終頁まで記載があり白紙のページはない。丁数は五三丁で、料紙にはすべて「ナカガワ」とある罫紙が使用されている。

本報告書での表題は後年付された厚紙表紙に記された「補助金請願日誌上」を採用したが、元の表題は「山鉾ニ関スル補助金請願日誌」である。筆者も元の「船鉾町清水良亮誌」から「山鉾連合会」へと改められているが、これにより表紙が後補された理由を山鉾連合会の設立に求めることが可能であろう。また元の表紙に「大正十三年八月廿四日新日誌ニ記録写済」とあり、最終頁に「以後ノ日誌ハ引続キ清水手元ニ於テ記録中」とあることから、関連史料の存在を示唆している。

起筆の年代は後補の表紙も元の表紙も「大正十年七月」としているが、本文をみると大正十年は「鉾保存維持ニ要スル補助金下附請願」について各鉾町から賛同を得て、その代表者から調印を受けたことのみが記されているだけである。また七月とあるものの日付を欠き、同一文中に他月の動向も記述されていることから、大正十年は補助金下附請願に至る経緯を説明するものであり、実際の起筆は大正十一年（一九二二）七月九日以降であると考えるべきである。

筆者の清水良亮は船鉾町の住人で、船鉾責任者、鉾町会長、山鉾連合会会長を歴任した、山鉾連合会の設立に関わる中心人物の一人である（テーウェン　二〇二〇）、（伊藤　二〇一七）。船鉾町では明治二十二年から二十五年（一八八九～九二）にかけて、禁門の変で罹災した船鉾の復興を行っているが（佐藤、矢野　二〇一八）、そこでは清水良亮の名を確認することができないため、それ以降に船鉾町の中心的な構成員に成長したと考えられる。

なお本史料の当該時期以降も清水良亮は山鉾連合会会長として、特に戦中・戦後の山鉾巡行の実施に尽力したことが知られている（テーウェン　二〇二〇）。

京都市からの補助金獲得までの概略

本史料の特色は、大正十一年から十三年にかけて山鉾町が補助金を獲得していく過程について、清水良亮の視点から日別にかなり詳細に記録されていることにある。以下に補助金下付請願からその認可までの概略を追ってみたい。

先述の通り、大正十一年の補助金獲得への動きは、その前年からすでに始まっていた。その経緯は「船鉾町発起ニヨリ当市ヨリ毎年鉾保存維持ニ要スル費用ニ対シ、補助金下附請願之件」を各鉾町に諮ったところ各鉾町からの賛同を得られ、大正十年中にその代表者から調印を受けたとしている。これまでも指摘されているように、度重なる自然災害や戦災と、そこ

からの復興のために、当時の山鉾町は慢性的な運営経費の逼迫に見舞われていた（伊藤　二〇一七）、（佐藤、矢野　二〇一八）。その打開策として京都市からの補助金獲得に乗り出したのである。

大正十一年七月九日に第一回の鉾町集会が清水良亮の私宅において開催された。当日は長刀鉾町、函谷鉾町、月鉾町、鶏鉾町、放下鉾町、岩戸山町、北観音山町、南観音山町と船鉾町の、「鉾町会」を構成する山鉾町の代表者各一名と、船鉾町の常務委員四名が出席し、請願方法などを協議した上で実行委員町選出の投票が行われ、船鉾町、長刀鉾町、函谷鉾町、放下鉾町、北観音山町の五町が当選し、以後、この五町を中心としながら補助金請願が行われることとなった。

同年七月十二日には実行委員町が清々講社幹事を訪れ、補助金の方策について意見交換を行っている。そこでどのようなやり取りがあったのかは明らかでないが、清々講社幹事の意見により、清々講社に対して補助金下付の願書を提出している。その願書では「清々講社ニ於テ下付ノ見込立チ難キ時ハ適当ノ方策ヲ講セラレ度」と、第一の目的は清々講社からの補助金下付（増額）であり、それがかなわない場合には「適当ノ方策ヲ講セラレ度」としていることが注目される。

その後何度か清々講社幹事に回答を促したものの得られず、ようやく十二月三日に山町の代表である油天神山町、孟宗山町同席のもと「目下増額不可能ニシテ、且又財界不況ノ折柄氏子ヨリノ増徴（神事費）モ出来難ク、又他ニ適当ナル方策モ立チ兼ヌル」と、否定的な回答を申し渡された。それに対して鉾町側は「恒久的ノ根本策トシテ、当市ヨリ補助金下附ヲ請願シ度クニ付、特ニ御尽力アリ度」と、京都市からの補助金獲得への尽力を求めた。七月から十二月までの五か月間にどのようなやり取りがあったのか不明であるが、山町の参加や補助金下付請願先の変更などから、何らかの協議があったことが想像される。

十二月三日の回答に接した鉾町は、清々講社に対して京都市からの補助金獲得への尽力と、それが達成されるまでは清々講社からの補助金を受けることを求める請願書や、山鉾町間での申合せ書を作成した。そこには「目的ヲ達スル迄各町出鉾セザル事」と、不退転の覚悟を読み取ることができる。

それから山鉾町は京都市長に宛てた「山鉾ニ関スル補助金下付請願書」および参考資料である出鉾・修繕費用明細書を整え、十二月二十八日、請願書と清々講社からの添書および山町、鉾町それぞれの参考資料を携え、清々講社代表、鉾町代表、山町代表の三名で京都市長馬渕鋭太郎に面会したうえで提出した。

請願書は翌大正十二年一月十六日の市参事会で大正十二年度予算案の中に反映され、途中、追加資料の提出を求められながらも、市参事会、予算委員会で可決され、三月三十日市会での原案可決を経て三月三十一日に山鉾町は補助金下付確定の知らせを受けた。ここから京都市からの補助金制度が始まったのである。

『補助金請願日誌 上』の史料的な位置付け

先にみた補助金下付請願に関わる一連の動きの中で、山町と鉾町の連携の必要性が増し、大正十二年三月三日、予算委員会直前にその対応策協議のため「山鉾連合集会」が「清々館」において催され、後の山鉾連合会の設立へとつながることになる。補助金獲得以降も、その実際の下付状況、関係者への礼状送付や山鉾巡行への招待、補助金の増額請願、関東大震災

の補助金への影響など興味深い事項も多いが、それらは史料本文に譲りたい。

最後に、本史料の位置に付いて検討しておく。

本史料は先述した通り船鉾町の清水良亮の視点によるものである。そのため山町の動向については内容的な制限がある。つまり本史料だけでは、概要把握はできても、その詳細については明らかにならない点もあることに留意する必要がある。

また補助金下付請願の発起者も本史料では「船鉾町」とされるが、他の史料により「当町（村山注・函谷鉾町）鉾係の吉川忠七、川端基介は打開案を話し合い、船鉾町清水氏にも相談し」（財団法人函谷鉾保存会編二〇〇一）との指摘もあることから、さらなる検討も必要となろう（注一）。

それでも本史料は山鉾連合会の設立の経緯を知るために極めて重要な史料であることに変わりはない。本史料はその性格上、本来は山鉾連合会あるいは船鉾町に伝わるべきものであるが、現在の所蔵は八坂神社となっている。なぜ本史料が八坂神社に伝わったのか、他にも関連する史料はあるのかなど、残された課題は今後の調査・研究により本格的に明らかにされていくことだろう。

〔注釈〕

（注一）大正十一年から大正十三年にかけての補助金下付請願で函谷鉾町および吉川忠七が重要な役割を果たしただろうことは、本史料からも読み取ることができる。今後のさらなる史料発見と研究をまちたい。

〔引用・参考文献〕

テーウェン・マーク「『祇園会山鉾連合会記録』に見る戦時・占領期の祇園祭―変動期における都市祭礼の意義と価値を考える―」（『人文學報』一一五、二〇二〇）

佐藤弘隆、矢野桂司編『船鉾　財団法人設立五十周年記念誌』（公益財団法人祇園祭船鉾保存会、二〇一八）

伊藤節子「近代における祇園祭山鉾巡行の継続に関する考察―清々講社を中心に―」（『観光研究』二九、二〇一七）

財団法人函谷鉾保存会編『函谷鉾町百年史　明治・大正そして昭和』（財団法人函谷鉾保存会、二〇〇一）

『補助金請願日誌 上』

〔凡例〕

・本史料は八坂神社が所蔵する『補助金請願日誌 上』を全文翻刻したものである。
・原史料の影印も、翻刻文の後にすべて収録した。
・翻刻文の改行は原史料に従った。
・原史料の欄外に記された月日は、ポイントを落としゴシック体で翻刻文の当該月日の記事の前に挿入した。
・翻刻文では旧字や異体字は当用漢字に直したが、固有名詞は原史料の表記に従った。また合字は仮名に直したが、「〆」のみ残した。
・誤字や文意が通じがたい箇所などに、翻刻文では脇に（ママ）と付した。
・原史料に抹消がある場合は、翻刻文の当該文字に二重取消線を付した。
・翻刻文には読点「、」を付さなかったが、読者の便をはかるために人名書上げ部分などについては一部に読点を付した。

『補助金請願日誌 上』（翻刻）

〔表紙〕

「大正十年七月起

補助金請願日誌上

山鉾連合会」

自大正十年七月

山鉾ニ関スル補助金

請願日誌

船鉾町

清水良亮誌

○大正十三年八月廿四日新日誌ニ記録写済

補助金請願日記

大正十年七月

大正十年七月船鉾町発起ニヨリ当市ヨリ毎年鉾

保存維持ニ要スル費用ニ対シ補助金下附請願之件ヲ

文章ヲ以テ各鉾町へ回達シ其賛成ヲ求メシニ各町共賛

成ノ意ヲ表セラレ夫々代表者ノ調印ヲ受クル同年十一月中

旬ニ至リテ各町ノ調印ヲ了シタリ

大正十一年七月九日

大正十一年七月九日船鉾町清水良亮宅ニ於テ第一回鉾町

集会ヲ開催ス出席者左記鉾町代表者及船鉾町常務

委員木村勘兵衛、西垣清八、目片俊三、小森安兵衛ノ四氏

長刀鉾町相賀氏、函谷鉾町十合氏、月鉾町橋本氏、

鶏鉾町川添氏、放下鉾町清水氏、岩戸山町中西氏、

北観音山町奥村氏、南観音山町桝井氏、船鉾町清水

請願方法其他ヲ協議シ実行委員町ノ選挙ヲ投票ヲ以テ行フ

結果　船鉾町八票　長刀鉾町八票　函谷鉾町六票

放下鉾町六票　北観音山町六票　以上当籤

次点　鶏鉾町三票　月鉾町三票　南観音山町三票

岩戸山町二票

委員町ハ請願貫徹スル迄甫一ノ代表者ヲ選定シ其実行ヲ期スル

事ト約ス　午前九時集合午後〇時半散会

七月十二日

七月十二日午前九時船鉾町会議所ニ於テ第一回委員会ヲ

開ク出席者、函谷鉾町吉川忠七氏、放下鉾町清水栄次郎氏、

北観音山町廣田聡介氏、船鉾町清水良亮（長刀鉾町欠席）

協議ノ上清々講社幹事大森義一氏ヘ陳情シ且同氏ノ意

見ヲ聴取スベク委員同道ノ上同氏宅ヘ出伺ス会見ノ結果

大森氏ノ意見ニ従ヒ書類ヲ以テ清々講社ヘ鉾壱本ニ付金壱

千円ノ補助金下付ノ願書ヲ出シ若シ右金額清々講社ニ於テ下付ノ見込立チ難キ時ハ適当ノ方策ヲ講セラレ度旨附言スルコトトシテ委員散解ス因ニ長刀鉾町國井氏ヘハ吉川氏ヨリ此旨伝ヘラル

七月十六日

十六日前委員会ノ協議ニ基キ大森氏ノ意見通リ願書ヲ作製シ五ケ町委員ノ連名ヲ以テ大森氏迄請願書ヲ提出ス

十二月三日

十二月三日予テ本年七月十六日付請願ノ件ニ付其後両三回大森氏宅ヘ出伺シテ清々講社ヨリノ回答ヲ促セシニ本日迄何等回答ナク漸クニシテ本日八坂神社々務所ヘ出頭スベキ様トノ通知國井藤兵衛氏ヘ到着セリ依テ委員中ノ吉川忠七氏及清水良亮鉾町ヲ代表シテ出頭ス同日山町ヲ代表シテ油天神山町小山氏、孟宗山町田中氏同席セラレ清々講社側ハ大森氏、半井氏ノ二名ト回見(ママ)ス清々講社ノ回答ノ要点ハ同社トシテ目下増額不可能ニシテ且又財界不況ノ折柄氏子ヨリノ増徴（神事費）モ出来難ク又他ニ適当ナル方策モ立チ兼ヌルニ付鉾町ニ於テ再協議ヲナスベキ様且再請願ノ際ハ従来ノ補助金ニ対シテ何割ノ増額ヲ要望スルモノト割合額ヲ申告セヨトノ回答ニ接ス鉾町ヨリハ恒久的ノ根本策トシテ当市ヨリ補助金下附ヲ請願シ度クニ付特ニ御尽力アリ度不日鉾町協議ノ上再願書提出スベキ旨ヲ告ゲテ散会ス

十二月五日

十二月五日午後七時ヨリ船鉾町清水良亮宅ニ於テ第二回委員会ヲ開ク出席者、長刀鉾町相賀氏、函谷鉾町吉川氏、放下鉾町清水氏、北観音山町廣田氏、船鉾町清水、以上五名協議ノ結果左記ノ請願書ヲ作製五名委員連署ヲ以テ提出スルコトトス

請願書　（清々講へ提出セル写）

去ル七月十六日付請願候ニ対シ本月三日御回答相受候件更ニ左記ノ通リ請願候条宜シク御取計ヒ願上候

一、鉾保存維持ノ為本市ヨリ毎年補助金下附相成候様御尽力相成度請願候事

一、前項補助金下付相成難キ場合ハ所期(ママ)貫徹候迄御尽力下サル、ト共ニ其間ニ限リ貴講社ヨリ年額鉾壱本ニ付甲金壱千円乙金九百円也ノ補助相受ケ度請願候事

右補助金下付相成難キ場合ハ不得止出鉾致難ク候事

右請願候也

大正十一年十二月九日　　鉾町委員　　連名　㊞

清々講社御中

十二月九日

十二月九日前記願書大森氏ヘ提出ス

十二月十九日

十二月十九日去ル九日付請願ニ対シ大森氏ヨリ回答アリ即チ本市

へ対シ補助金下付申請ニ協同シテ尽力スベク願書ニ連名スル
コトヲ承諾ノ旨ノ返答ヲ受ク

十二月廿二日

廿二日午後七時船鉾町清水良亮宅ニ於テ第三回委員会ヲ開ク
出席者、函谷鉾町吉川忠七氏、放下鉾町清水栄次郎氏、
北観音山町廣田聡介氏、船鉾町清水良亮、以上四名
請願書作製ニ付テ種々協議ス此日朝大森氏ヘ出伺シ願書
草稿作製方依願セシニ対シ古来ヨリノ補助沿革ヲ詳記シ
テ参考ノ為トテ送ラル願書ハ鉾町ニ於テ作製セラレタキ旨ノ
大森氏ノ意見ニ付委員協議ノ上文案作製ヲ清水良亮ニ
委任セラル同席上左記申合ノ件函谷鉾町ヨリ提案アリ協議ノ
上明春各町ノ意見ヲ聴取シテ決定スベキ事トシテ散会ス

申合契約書　（函谷鉾町提案ノ写）

第一条　各鉾町申合ノ趣旨ハ清々講社及当市ヘ鉾修繕
費并ニ経費ノ補助ヲ請願シ貫徹ヲ期スル事ヲ
目的トス

第二条　第一条ノ目的ヲ達スル迄各町出鉾セザルコトヲ約ス

第三条　第一条ノ目的ヲ達成スル為各鉾町ハ信認金トシ
テ金弐百円供托シ置クモノトス

第四条　第一条第二条ノ申合ヲ異約ナシタル場合ハ第三条ノ
信認金ハ本契約遵守ナシタル各町ヘ提供シ決シテ
取戻シノ請求ヲナサヾルモノトス

第五条　第三条ノ信認金ハ三井銀行ヘ預ケ入ル、モノトス

第六条　第一条ノ目的貫徹ノ上ハ信認金ハ元利共割戻スモ
ノトス

第七条　本契約ノ期間ハ向三ケ年トシ再契約ヲナスコトヲ得

右契約ヲ確証スル為本証　通ヲ作製シ各鉾町壱通
宛所持スルモノ也

十二月廿三日

十二月廿三日本市ニ対スル請願書原稿作成依頼ヲ東堀
川丸太町上ル船岡勒助氏ニ依頼ス

十二月廿四日

十二月廿四日船岡氏前記原稿作成シ持参セラル之ヲ
披見シ訂正ノ箇所ヲ朱書シテ同夜再度船岡氏
方ヘ出伺シ浄書方依頼ス

十二月廿五日

十二月廿五日請願書浄書出来シタルヲ以テ各町代表者ヲ歴訪
シ署名捺印ヲ受ク同夜（長刀鉾町代表者不在ノ為仝町ノミヲ
残シテ）山町代表者小山氏方ヘ回達ス

十二月廿六日

十二月廿六日午後一時ヨリ清水良亮宅ニ於テ第四回委員会ヲ開ク
出席者、吉川忠七氏、廣田聡介氏、清水良亮
去ル廿一日付各町ヘ通告セル出鉾費用明細書及修繕

費用明細書ノ提出ヲ受ケタルニ付之ヲ検シ一ノ調書ヲ作製シ市長宛ノ願書ニ参考書トシテ添付スベク協議ス

作製セル参考書左ノ如シ

大正十一年度出錵費経常費　但シ錵壱基ニ対スル各町平均額

一金壱阡〇四拾四円也　支出総額

内訳

一壱百円也　大工方支払
一弐百円也　手伝方支払
一八拾円也　曳子人足四十人分
一壱百円也　車方支払
一金七拾五円也　囃子方浴衣三十枚
一〃百弐拾円也　同　謝礼三十人分
一〃四拾六円拾銭　蝋燭電灯代
一〃参拾参円六十銭　提灯上ケ人足六日分
一〃参拾円也　提灯張替代
一〃参拾六円八十銭　揃扇揃手拭代
一〃五拾五円九十銭　囃子方人足弁当代
一〃参拾九円〇五銭　供尊費棕餅神酒等
一〃参拾壱円六十銭　縄榊松代等
一〃拾八円　夜警九日分謝礼
一〃弐拾円　樟脳代
一〃弐拾円　用人謝礼
一〃八円四拾銭　錵蔵掃除人夫三人
一〃拾四円五拾五銭　洗濯代
一〃拾五円也　雑費

以上

修繕ヲ要スル箇所明細書

一長刀錵町　胴巻　屋根　天水引
一函谷錵町　真木新調　曳綱新調　胴巻
　見送　天水引修繕
一鶏錵町　天水引　天井　屋根　胴巻修繕
一月錵町　見送　胴巻　屋根　修繕
一放下錵町　雨覆新調　天水引　見送　胴巻修繕
一岩戸山町　錵車新調　天水引　屋根　歩廊修繕
一船錵町　埒囲修繕　水引　朱高欄　天幕修繕
一北観音山町　常飾胴巻　見送　欄縁（ママ）金具　埒囲
一南観音山町　雨覆　天水引　胴巻　見送

以上

大正十一年度ニ於テ各町修繕及新調費

一金拾五円　函谷　テコ一梃
一〃参百円　〃　胴巻一部修理
一〃壱百八拾円　月錵　曳綱新調
一〃参百〇弐円廿五銭　鶏　天水引二枚修繕
一〃五拾四円弐拾五銭　〃　屋根一部直シ大工支払
一〃五拾六円七拾七銭　〃　幕新調
一〃百五拾円也　放下　天幕応急修理
一〃参百五拾円也　岩戸　朱綱隠新調
一〃弐百円也　〃　黒　同断

一〃三百五拾円也　〃　雨覆新調
一〃八百五拾円也　〃　蔵修繕
一金百八拾円也　船　車真棒新調
一〃六百円也　〃　雨覆新調
一〃五拾壱円弐拾銭　〃　旗　新調
一〃拾九円五拾銭　〃　雨覆并掛矢代
一〃八百円也　北観音　天井修繕
一〃四百円也　〃　金幣壱対
一〃壱千円也　〃　土蔵修繕
一〃参百五拾円也　〃　会議所修繕
一〃六百参拾円也　南観音　屋根胴巻一部直シ
一〃八拾六円也　長刀　小修繕
右之通リニ候也

十二月廿七日

十二月廿七日朝来調印ノ長刀鉾町ノ署名捺印ヲ受ケ直チニ清々講社へ願書ヲ回付シテ署名ヲ依頼ス
仝夜大森氏ヨリ電話掛リ清々講社幹事会ニ於テ該願書ニ捺印致難ク依テ別ニ同社幹事五名ノ連記副願書ヲ添付スル事ト協議セラレタル旨通知アリ年内余日ナク明廿八日ニ市役所へ提出セザレバ十二年度ノ予算ニ繰入レ相成難キ事情アリ請願書ノ修正等ヲナス余猶(ママ)無之ニ付右大森氏ノ通告ニ従ヒ副願書ヲ申受ケル事ト諾ス

十二月廿八日

十二月廿八日朝来大森氏及吉川氏山町田中氏ヲ歴訪シ同日市長ニ面接シテ陳情スベク同道方ヲ依頼シ~~大森氏~~タル結果同午後~~大森氏宅ニ集合シ~~清々講社代表者大森義一氏、鉾町代表者清水良亮（吉川氏御差支）、山町代表者松村甚右衛門氏、以上三名市会議員目片俊三氏ノ御紹介ニヨリ市長ニ面会シ左記請願書并ニ清々講社ヨリノ副書及ヒ去ル廿六日作製セル参考書三通及山町ノ作製ニヨル参考書弐通ヲ提出シ各町ノ衷情ヲ陳情シ請願ス此日市役所ニ於テハ御用納ノ日トテ市長モ多忙ノ折柄特ニ面会ヲナシ得タルハ目片氏ノ御紹介ノ賜ト感謝ス

山鉾ニ関スル補助金下付請願書

歳末多忙ノ際敢テ書ヲ座右ニ上リ官幣大社八坂神社私祭山鉾巡行ノ神事ニ供スル山鉾ノ保存并ニ修繕ニ要スル費用ノ件ニ関シ切ニ閣下ノ採択ヲ仰カントス
コノ古典的ニシテ優雅ナル祇園会ハ唯ニ氏子ノミナラズ全市民ノ渇仰スル所又本市繁栄策ノ一トシテ見ルモソノ価値没スベカラズ之ヲ他ノ神社私祭ニ比スルニ大ニ趣ヲ異ニスルアルハ賢明ナル閣下ノ夙ニ知悉セラル、所ナルベシ
元来山鉾ニ要スル費用ハ織田氏執政ノ時代ヨリ年貢ノ口米即チ地ノ口米ト称スルモノヲ以テ之ニ充テ来リシガ其後元治甲子ノ兵乱ニヨリ山鉾ノ巡行ハ一時中絶ヲ見タリシガ明治五年之ヲ復旧再興シ其経費ハ各町ノ負担制トナシ

タリ後氏子ノ発企ニ係ル清々講社ノ設立ヲ見ルニ至リ明
治二十年以来同社ハ八坂神社ノ私祭執行ノ任ニ膺リシヨ
リ山鉾ニ対スル補助ヲモ管掌スルニ至レリ
然ルニ之カ保存并ニ修繕ニ要スル費用ハ別トシテ曳出ニ
要スル諸経費ニ就キテ考フルモ其額累年嵩ミ来リ
最近ニ於テハ鉾九基山拾九基ニ対スル神事費ノミニテモ
壱万円以上ニ達シ其外毎年小修繕ニ要スル経費モ
亦少カラズ清々講社ヨリノ補助金年額約五千円ヲ
控除スルモ尚費額甚大ナリ現在ノ山鉾ハ天保年間
ニ大修繕ヲ施シ其後小修繕ヲ加ヘツヽ現今ニ至リシモノ
ニシテ爾来約百年ノ星霜ヲ閲シ破損ノ箇所頗ル
多ク近ク大修繕ヲ加ヘザルベカラザル状態ニアリ然ルニ
毎年巡行ニ要スル費用サヘ其支弁ニ苦ミツヽアル現状
ニ徴シ此上尚修繕ニ要スル費用ヲモ氏子ノ負担ニ竢タ
ンハ至難ノ事ニシテ延テハ将来該神事廃止ノ止ムナキニ
至ルヤモ計リ知ルベカラズ宇内無双ノ麗観タル此古典ノ
亡ヒシ後ノ本市夏季ノ寂莫ニ想到センカ転タ感慨ニ
堪ヘサルモノアラン況ンヤ本市ノ繁栄ニ古美術ノ保存ニ
多大ノ貢献アルニ於テヲヤ
冀クハ閣下ノ裁量ニヨリ保存并ニ修繕ノ費トシテ大正
十二年度ヨリ鉾九基ニ対シ毎年金四阡五百円山拾九
基ニ対シテ金参阡四拾円合計金七阡五百四拾円ノ
市公費補助セラレンコトヲ茲ニ該補助金使途参考
書最近経費計算書ヲ添付シ山鉾町代表者連
署ヲ以テ伏シテ懇願ニ堪ヘサル所ナリ

大正十一年十二月廿八日

京都市長馬渕鋭太郎殿

大正十二年一月十二日

大正十二年一月十二日旧冬函谷鉾町提案ノ申合契約書条項ヲ
明記シテ各鉾町ノ賛否ヲ照会ス追テ廿日迄ニ回答ヲ乞フ旨
添書ス

一月十六日

一月十六日本日市参事会ニ市長ヨリ十二年度予算案提出セラレ
タル中ニ旧冬請願ニ係ル山鉾ニ関スル補助金繰込マレタル旨
目片俊三氏ヨリ通告ヲ受ケ今後ノ運動方法併テ指示ヲ受ク

一月十七日

一月十七日右ノ趣各鉾町ヘ通告スルト共ニ左記市参事会員
ニ知己ヲ有セラル、向ハ此際市参事会ニ於テ該補助金可決
通過スベキ様知己参事会員ニ懇請セラレ度キ様回文ヲ以テ
依頼ス　市参事会員中山鉾ニ直接関係アル川本元三郎氏、
寺村助右衛門氏、目片俊三氏、以上三君ヲ除ク左記七氏
高山与之吉氏、八木伊三郎氏、山下槌之助氏、
久保長次郎氏、大島佐兵衛氏、若村徳三郎氏、
俵儀三郎氏、以上
右之件同日山町代表者油小路天神山町小山氏ヘ通告ス

一月二十日

一月廿日左記之件ニ付第二回総会ヲ船鉾町清水良亮宅
ニ於テ開ク出席者、長刀相賀氏、函谷吉川氏、月土田氏、
鶏河添氏、放下清水氏、岩戸北澤氏、北観音廣田氏、
南観音桝井氏、船清水、以上九名
要件一、申合契約書　賛否聴取之件
二、市参事会員懇請ノ件予テ書面ヲ以テ通告セシ
ト雖モ尚徹底ヲ期スベキ為協議ス
三、昨年七月九日以来ノ経過報告之件
右第一ノ件ニ付テ請願ヲ懇徹底スベク各町ノ協同一致ヲ旨トスル
上ニ於テ各町共賛成アリ故ニ各条項ニ付協議ヲ進ム
第一条異議ナシ第二条船鉾町ヨリ不穏当ノ点アリ修正ヲ求ム
各町種々意見百出シ結局「但シ清々講社及当市ヨリノ回答
ニヨリ協議会ヲ開ク事ヲ得」ト但シ書ヲ附スル事ト決定ス
第三条長刀鉾町、月鉾町ヨリ修正説出デ結果信認金ヲ金
壱百円ニ減額ス第四条異議ナシ第五条北観音山町ゟ
ノ意見ニヨリ（保管名義人ヲ定メヨトノ意見）各町協議ノ結果
吉川忠七、清水良亮ノ両氏ヲ鉾町会代表者ト選定スル事ト
決定シ「原案」中信認金ハ次ヘ「鉾町会代表者清水良亮、吉川
忠七名義ヲ以テ」ノ十九字加入スル事トス第六条異議ナシ
第七条北観音山町ヨリ契約期間壱ケ年ニ修正説出テシモ原
案通三ケ年ト決定依テ以上修正シテ該契約書九通作製之上
各町代表者丱ノ調印ヲナシ併テ信認金拠出スベク約シ散会ス
午後一時集合、同五時三十分散会ス

一月廿四日

一月廿四日契約申合書吉川氏ニ於テ印刷（謄写版ニテ）方依頼
シ置タル所出来上リ持参相受ク（吉川氏ハ調印ヲ丱シテ持参セラル）

一月廿九日

一月廿九日申合契約書調印ヲ求ムベク長刀鉾町相賀氏ヘ
該証九通持参ス便宜上鶏、月、放下、南観音、北観音、
岩戸ノ順ニ右証書回達セラル、様書類添付セリ

一月卅日

一月三十日夜岩戸山町ヨリ契約申合書九通調印ヲ了シ持参
セラル依テ船鉾町ノ調印ヲ了シ翌

一月卅一日

一月三十一日長刀鉾町未調印ニ付同町相賀氏ヘ回付ス

二月二日

二月二日長刀鉾町相賀氏ヘ出伺シ且相賀氏ト同道シテ
同町國井氏ニ面接シ諒解ヲ受ク

二月四日

二月四日長刀鉾町相賀氏契約書ニ調印ヲ了シ信認
金壱百円ヲ添ヘテ御提出相成候則チ各町ノ調印完成ス
故ニ壱通ヲ相賀氏ヘ相渡シ信認金受領ス

二月五日

二月五日証書ヲ各町ニ配布シ併テ信認金ヲ集収ス

北観音山、南観音山、放下鉾ノ三ケ町収受ス

二月六日

二月六日鶏鉾、月鉾、岩戸山ノ三ケ町信認金収受ス

二月七日

二月七日午前吉川忠七氏及清水良亮同道シテ九ケ町ノ信認金ヲ三井銀行ニ預金ス六ケ月定期預金トシ金額ハ金九百円也利息年六分之割満期大正十二年八月七日証書番号乙亥第弐参〇四番名儀人鉾町会代表者吉川忠七、清水良亮ノ連名トス

二月十三日

二月~~七~~十三日市役所庶務課長ヨリ大森義一氏ヘ電話掛リ明十四日市参事会々議開会ニ際シ各山鉾町ノ修繕費額明細書ヲ要スルニ付今日中ニ提出スベキ旨ノ通達アリタル由同氏ヨリ更ニ移牒アリ時ニ午後六時過キナリシ為早速庶務課長小西氏宅ヘ電話ヲ以テ提出期限ヲ明十四日午前迄延期セラレタキ様通告シ同時ニ各鉾町ヘ回文ヲ以テ前記ノ趣通報シ明細書ノ作製方依頼ス尚油小路天神山町小山氏ヘ電話ヲ以テ同様ノ通告ヲナシ山町ノ分ハ小山氏ニ於テ取纏メ方依頼ス

二月十四日

二月十四日早朝ヨリ各鉾町ノ見積書ヲ取纏メニ奔走シ漸ク十一時全部揃ヒタレバ別綴小山氏ヨリ提出セラレタル山町十九ケ町ノ分ト併テ市役所ヘ持参シ庶務課長ニ面接シ該書類ヲ差出シ審問ニ応答シ十二時退出帰宅ス

因ニ各町見積書内容左ノ如シ山町分ハ省略ス

長刀鉾町見積総額予定参四千円也

一、両覆胴巻　四枚　一、胴巻上部　四枚

一、天水引　四枚　一、天井覆　一枚

一、屋根廻破風修繕

函谷鉾町修繕見積総額七千九百七拾円也

内訳　四百九拾円也　真木新調

壱百参拾円也　引綱新調

五拾円也　小綱新調

弐阡円也　胴巻修繕

弐千円也　前見送修繕

弐千五百円也　見送修繕

八百円也　天水引修繕

鶏鉾町見積総高(ママ)金五千百八拾五円也

内訳　金千七百円也　金幣四枚新調

一〃五百五拾円　天井覆壱枚新調

一〃弐百八拾円　四隅房掛修繕

一〃百八拾円　縮緬鉦ツリ八本代新調

一〃六百七拾五円　伴天五十枚新調

一〃参百五拾円　庫ヨリ一階へ桟橋修繕
一金千弐百円也　天水引胴巻修繕
一〃弐百五拾円　見送リ修繕

月鉾町見積総額五千百円也
内訳　一金参千円也　胴巻四枚修繕
一〃千六百円也　車四枚　〃
一〃五百円也　屋根　〃

放下鉾町見積総高(ママ)五千百円也
一金弐阡円也　屋根廻リ修繕
一〃六百円也　両覆　新調
一〃壱千円也　胴巻　修繕
一〃五百円也　胴天水引〃
一〃壱千円也　見送　〃

岩戸山見積総高(ママ)金四千九百五拾円也
内訳　一金参阡円也　車四枚　新調
一〃参千円也　屋根　修繕
一〃四百五拾円　天水引　〃
一〃五百円也　歩廊　〃

船鉾町見積総額金五千八拾円也
一金千弐百円　本飾天幕二枚新調
一〃九百円　常飾天幕新調
一金五百円也　朱高欄塗替金具直シ
一〃壱千円也　常飾水引大修繕
一〃八百円也　埒囲　大修繕
一〃六百円也　本飾水引修繕
一〃八拾五円也　人形殿戸帳新調

北観音山町総額金五千四百五拾円也
内訳　一金壱阡五百円也　欄縁金具修繕
一〃壱阡円也　常飾水引新調〃
一〃壱阡五百円也　同胴巻新調
一〃弐百円也　埒囲修繕
一〃八百円也　見送〃
一〃四百五拾円也　伴天三十枚新調

南観音山町総額五千参百円也
内訳　一金八百円也　両覆新調
一〃弐千円也　見送修繕
一〃千円也　胴巻〃
一〃千五百円也　天水引〃

以上

二月廿三日

二月廿三日市参事会ニ於テ久保長次郎氏壱人ノミ反対ニテ九対一ノ多数ヲ以テ原案可決ス

三月二日

三月二日山鉾町連合会開催ニ付昨一日八坂神社々務所借入ヲ交渉シ三日午後二時ヨリ開会スル事ニ取極メ其旨各鉾町及上下山町当番ヘ通知ヲ発ス

三月三日

三月三日午後二時ヨリ清々館ニ於テ山鉾町連合集会ヲ催ス出席者廿六名（欠席二名南観音山町町名不明ニ付略ス）清々講社代表トシテ大森氏以上廿七名今後ノ実行方法ニ付協議ス即チ出席者并ニ各山鉾町住員中ニ市会議員ニ知己ヲ有スル者ハ知己ノ議員ヲ訪問シテ領解ヲ受クベク交渉スル事右決定ヲ見シ後議論百出シ前決定ヲ取消サシトセシガ白楽天町ノ発議ニ依リ前決定ノ通極力尽力スル事トナリ又議論ノ焦点ハ清々講社ト山鉾町間ニ意志ノ疎通ヲ欠ケルニ因スル感情ノ行違ナリ

尚市参事会員拾名ニ対シ過日来市参事会ノ労ヲ謝シ併テ今後ノ尽力ヲ乞フ為左記挨拶状ヲ送付スル事ト協議ス

拝啓春寒猶去難ク候処弥御清福之条奉賀候

陳者過般十二年度予算案御審議ニ際シ祇園会山鉾補助金ノ件参事会ニ於テ原案可決相成候事ハ全ク祇園会山鉾ニ対スル貴下ノ深キ御理解ト厚キ御配慮ノ賜モノト奉感謝候猶此上共ニ御尽力相仰キ度乍略儀以書中御挨拶迄如斯御座候　敬具

大正十二年三月四日　　山鉾町一同

右挨拶状十通ハ吉川忠七殿ニ依頼シ三月四日発送ス

三月四日

三月四日橋弁慶山町山河氏ヨリ田畑庄エ門氏、野渕兎吉氏ヲ訪問セラレタル旨通告ニ接ス

三月五日

三月五日朝前田氏ヨリ以葉書同町員諸氏協力シテ左記訪問セラルベキ旨通告ニ接ス　平井権七氏、百木伊之助氏、伊藤豊之助氏、伊藤平三氏、大久保作次郎氏、苗加房三郎氏、石原泰次郎氏、川上清氏

是ヨリ先キ昨四日上下山当番町及鉾町ヘ市会議員名簿書配布ス但シ一昨三日出席者ニ名簿書配布セシモ紙数不足ノ為俄カニ吉川忠七氏ニ依頼シテ写書ヲ作リコレヲ未渡ノ御町ヘ配布セリ

同日岩戸山町竹内氏ヨリ田中新七氏訪問スベキニ付同道スル様ニ申越サレタレバ午前十一時同氏宅ヘ出伺ス折悪シク不在ナレトモ両名詳述シ置ク同夕國井氏ヨリ田辺正記、小篠長兵衛ノ両氏訪問シ懇談セラレタル旨通報ニ接ス本町塚本氏ヨリ田崎議員訪問セシ旨通知アリ

同日市会ニ於テ十二年度予算案左記十五名ノ委員附託トナル

田辺正記、中村弥三郎、友田金三郎、大久保作次郎、遊津喜太郎、野渕兎吉、橋本永太郎、川人忠平、田中謙、竹内嘉作、川橋豊次郎、鈴木紋吉、伊藤豊之助、田中新七、田崎信蔵

三月六日

三月六日岩戸竹内氏ヨリ森田茂、川橋豊次郎氏訪問セシモ両氏トモ不在ノ旨報告ニ接ス

三月七日

三月七日予算委員名報告ト共ニ同委員ヘ交渉方依頼

状ヲ各鉾町へ以回章通告ス

三月十二日

三月十二日左記委員及議員訪問ス　坂部秀夫氏、和田孝治氏、友田金三郎氏、西尾林太郎氏、中村弥三郎氏、但シ坂部、和田両氏不在ニテ回談スルコトヲ得ズ

三月十三日

三月十三日左記委員訪問ス　橋本永太郎氏、田中謙氏、竹田嘉作氏、以上何レモ不在面談スルコトヲ得ズ

三月廿一日

三月廿一日委員会ノ経過芳シカラズ依テ各委員訪問方ニ付各山鉾町へ尽力方依頼章ヲ発ス

三月廿七日

廿七日昨廿六日委員会ニ於テ満場一致可決セル旨各町へ通知ス

三月卅日

三月卅日市会ニ於テ予算委員長報告通リ大多数ヲ以テ原案可決ス

三月卅一日

卅一日山町会代表者松村甚右衛門氏、岩戸山町代表者竹内増蔵氏、御来訪ヲ受ケ補助金下付確定ニ付テ御挨拶ヲ受ク

四月二日

四月二日市会議員五拾弐名へ左記同文ノ挨拶状ヲ発送ス

拝啓時下春和之候弥々御清祥之段奉大賀候陳者過般大正十二年度予算案御審議ニ際シ祇園会山鉾維持費補助ノ件市会ニ於テ可決相成候事ハ全ク祇園会山鉾ニ対スル貴下ノ深キ御理解ト厚キ御配慮ノ賜物ト奉感謝候就テハ早速参趨御礼可申述筈之処乍略儀以書中御挨拶迄如斯御座候　敬具

大正十二年四月一日　　祇園会山鉾町一同

尚市長宛別文挨拶状ヲ発ス

四月三日

四月三日大森義一殿宛挨拶状ヲ発送ス清々講社各幹事へ宜敷御伝言ヲ托ス

四月四日

四月四日午後七時ヨリ清水宅ニ於テ委員会ヲ開ク出席者長刀鉾町相賀氏、函谷鉾町野村氏、放下鉾町清水氏、北観音山町廣田氏、清水以上五名、協議事項左之如シ

一本市ヨリ補助金下付確定セルニ付本年一月廿日決議セル申
合ニ就テ出鉾スルヤ否ヤ
市公金中ヨリ補助ヲ受クル事ニ付本年ハ大体ニ於テ出鉾スベ
キ事ヲ是認スルコトトシ申合第一条ニ付更ニ清々講社ヘ交渉
シテ増額ノ要求ヲナス事要求額ハ市長宛申請当初ノ
金五百円ヲ参百円ニ削減セラレタル不足額金弐百円トス
一山会長松村甚右衛門氏ヨリ御申出ニ係ル山鉾連合会ヲ
毎年一回催シテ各山鉾町ノ意志ノ疎通ヲ計ル事ニ付テ
右ハ各委員賛成毎年一回開催スル事ト決ス開催ノ時期ハ
祭礼前ヲ適当トスル故六月中旬若シクハ廿日頃トスル事
一本年神事祭礼当日（七月十七日）市長、庶務課長、市会議
員諸氏ヲ招待シ山鉾巡行ヲ供覧スル事
右休憩所ニ充ツル為四条通高倉以東柳馬場以西北側ニ
適当ナル箇所ヲ選定シ交渉スル事若シ借入出来難キ時ハ
長刀鉾町々会議所借用ノ事トス
一本請願運動ニ要スル経費ノ負担法之件
総入費ノ半額ヲ鉾町九ケ町ニ負担シ半額ヲ山町十九ケ町ニ於テ
負担セシムル事万一山町ヨリ異議アル場合ハ補助金額ニ
按分比例シテ割当ル事トス
協議前ニ本日迄ノ経過報告及市長市会議員清々講社ヘ
挨拶状発送セシ事ヲ報告ス午後九時散会

四月五日

四月五日前日ノ決議事項ヲ通告ノ為孟宗山町田中氏ヘ出伺
シ山町会ノ協賛セラレン事ヲ乞フ

四月十二日

四月十二日山会長松村甚右衛門氏ヨリ電話掛リ鉾町会ノ
決議事項ニ付テ山町会ハ異議ナキ事ヲ回答セラル
但シ清々講社ニ対スル増額ハ口頭ヲ以テ申請スルヲ可トストノコト
ニ付追テ日ヲ期シ山鉾町同道シテ清々講社幹事ニ陳情ス
ルコトヲ諾ス

四月廿一日

四月廿一日山会長松村氏ヨリ明日（廿二日）清々講社幹事会アリ
各幹事集合セラル、機会ヲ以テ山鉾町ヨリ陳情スルコトトシテ
如何トノ事ニ付各委員町ヘ出席方通告セルモ各位不在又ハ
差支ノ為明日ノ参会致難ク依テ此旨松村氏ヘ回答ス

五月一日

五月一日清々講社幹事毎月一日社務所ヘ集合セラル、由
仄聞ス仍テ（四月廿九日社務所ヘ問合セ集合セラル、事ヲ確メ
山会長松村氏、鉾委員町ノ内函谷鉾町吉川氏、北観音山町
広田氏（ママ）ヘ五月一日出席セラル、様通知ヲ発ス）同日午後二時
八坂神社々務所ヘ集合ス出席者、鉾町側吉川氏、廣田氏、
清水、山町側松村氏、油天神山町村井氏、八幡山町藤木氏、
以上六名清々講社幹事寺村氏、中林氏、菊岡氏、以上三氏ニ
面談シ各町ノ事情ヲ詳述シ増額ヲ申請ス追テ何分ノ回

答セラル、事トナリ散会ス
同席上山鉾町連合会ヲ来ル六月十五日祇園中村楼ニ於テ
開ク事ト協議ス

五月十四日

五月十四日清々講社幹事ヨリ去ル一日申請増額之件ニ関シ
本年度予算決定後ニ付支出ノ途無之故本年ハ前年通リノ
補助ヲ以テ挙行シ私祭終了後社長会ニ於テ協議スベキ様
可致旨回答ニ接ス

五月二十日

五月三十(ママ)日市役所庶務課ヨリ補助金之件ニ付談合致度出
頭スベキ様トノ通告ニ接シ午前十時山鉾町ヲ代表シ庶務課
ニ出頭シ同課長小西辨次郎氏ト面談ス要件左ノ如シ
本年度予算審議ニ当リ山鉾ニ対スル補助金可決セル故ニ各
山鉾町ニ於テ今大正十二年度ニ修繕又ハ新調ヲ要スル見積書
ヲ提出スベキ様トノ事
右見積金高ハ各町毎ニ金高相違スベキモ各町毎ニ見積
書ヲ提出セズ各町連帯ノ見積書ヲ提出スル事
猶会計年度大正十三年三月後二ケ月以内ニ実支出計算書
ヲ各町連帯ニテ提出スベキ事
右二項ニ付テ提出方ヲ命ゼラル(ママ)タリ見積書提出ノ上ハ予
算ニ於テ決定セル下附金ヲ山鉾町連合会ヘ交附セラル、由
同日午後右庶務課長面談ノ用件ヲ携ヘ山町会長
松村甚右衛門氏ヲ訪ヒ詳細通告シ置ク山町ニ於ケル見
積ハ同氏ノ手ニ依リ纏メラレ度申置ク尚鉾町ニ対シテハ
六月上旬鉾町会開催ノ予定ニ付其席上ニ通達スルコトトス

六月五日

六月五日第三回総会ヲ清水宅ニ於テ開キ左記協議ス(午後二時ゟ)
一清々講社ヘ増額（補助金）之件
従来ノ交渉ノ有様ヲ報告シ本年ハ昨年通リニテ出鉾シ祭礼
終了後改メテ増額ヲ申請スル事
一申合契約（本年一月廿日協定）第二条出鉾云々ノ件
本年ハ幸ヒニ当市ヨリ補助金下附確定セル故申合セ出鉾
スル事ト協定ス
因ニ保管スル所ノ信認金ハ三井銀行定期預金満期ノ上
元利割戻シ同時ニ申合契約書ヲ破棄スル事
一鉾町会設立ノ件
各町異議ナク毎年一回総会ヲ催スコト必要ニ応シ臨時
総会ヲ開ク定期総会ハ毎年六月中旬ニ開クコトト定メ
各鉾町ハ会費トシテ金六円毎年六月一日出金スルコト
幹事ハ当番町ヲ以テ之ニ充テ毎年交迭スル事
経費不足額ハ出席者ニ割当テ追徴スルコト
欠席者ニハ会費ノ払戻シ又ハ料理折詰等ノ贈呈ヲ
ナサザル事ト協定ス
鉾町会総会ノ節ハ八坂神社ニ参拝ヲナシ神事必要事
項ニ付各町意見ヲ述ベ協定スル事

来ル六月十五日中村楼ニ於テ初会ヲ開ク
便宜上山鉾連合会ヲ開ク事ヲ得ル事
初会ニ限リ過般来尽力セラレタル船鉾町目片俊三氏
ヲ招待スル事
一祭礼当日市会議員ヲ招待シ山鉾ノ巡行ヲ供覧セシムル件
種々議論続出シ決定ヲ見ズ来ル十五日ノ総会迄保
留宿題トス
一去ル廿日（五月）庶務課長ノ通告ニヨリ本年度各町新調
又ハ修繕ニ要スル費額見積之件
来ル十五日総会席上ニ提出（見積書ヲ）スル事トス
以上午後五時散会出席者長刀鉾町（相賀氏）、函谷鉾
町（吉川氏）、鶏鉾町（河添氏）、月鉾町（橋本氏代）、放下
鉾町（清水氏代）、岩戸山町（竹内氏）、北観音山町（廣田氏）、
南観音山町（桝井氏）、舟鉾町（清水）（ママ）以上九名

六月十二日

六月十二日来ル十五日総会兼鉾町会発会開催ノ案内ヲ発ス

六月十五日

六月十五日午后三時於中村楼集合同四時八坂神社へ参拝奉告ヲ
兼テ祈祷祭ヲ修シ再ビ中村楼ニ戻リ総会ヲ開ク鉾町代表
清水良亮、山町代表松村甚右衛門氏挨拶アリ山鉾町連合会
設立ノ趣旨ヲ述ベ協議ニ移リ予テ懸案ニ係ル祭礼当日市
会議員招待之件ハ当日休憩所借入摂待（ママ）方（各町共祭礼当
日ハ多忙ノ為メ摂待（ママ）ニ当ル人員難）困難ノ故ヲ以テ否決トナリ之ニ
代ルニ十五、十六日（後ノ祭礼ニアリテハ廿二、三ノ両日）ニ限リ別ニ一定
ノ拝観券ヲ発行シ市会議員諸氏ヘ発送スルコトト決定ス因ニ参観
者ニ対スル待遇ニ付テハ各町略一定シ置クヲ可トスル故協議ノ結
果別段ノ設備ヲナサズ単簡ナル茶菓ヲ呈スルコトト協定ス
一毎年開ク総会ハ十五日ハ多少遅キトノ意見アリ協議ノ結果
明年度ヨリ六月五日開催スルコトト決定ス
一左記鉾町会申合規約ヲ協定ス
第一条　本会ヲ祇園会鉾町会ト称シ各鉾町代表者ヲ以テ
組織ス
第二条　本会ハ各鉾町協力シ八坂神社祭事ニ資シ併テ交
互ノ親睦ヲ謀ルヲ以テ目的トス
第三条　本会ノ事務ヲ処理スルタメ幹事壱名ヲ置ク
但シ幹事ハ当番町代表者ヲ以テ之ニ充テ当番順ニ
依リ一ケ年毎ニ交代スルモノトス
第四条　総会ハ毎年六月五日ニ開ク
但シ必要ニ応ジ臨時総会又ハ山町会ト連合シテ連
合総会ヲ開催スル事ヲ得
第五条　各鉾町ハ会費トシテ金六円ヲ毎年六月一日醵
出スルモノトス
但シ右会費ハ定期総会ノ費用ニ充当シ経費ノ
不足ヲ生ジタル時ハ出席員ニ割当テ追徴ス
総会ニ欠席者アルモ会費ノ払戻シヲナサズ
第六条　総会ノ決議ハ出席員ノ多数決ニヨル

但シ欠席員ハ異議ヲ唱フルコトヲ得ズ

以上

大正十二年六月十五日　当番町順

鶏鉾代表者　㊞
函谷鉾町代表者　吉川忠七
長刀鉾町代表者　相賀彦次郎
岩戸山町代表者　竹内増蔵
船鉾町代表者　清水良亮
月鉾町代表者　槁本彦太郎
北観音山町代表者　廣田聡介
南観音山町代表者　桝井増蔵
放下鉾町代表者　清水栄次郎

当日出席者、来賓目片俊三氏、鉾町、長刀國井氏、函吉川氏、月橋本氏、放清水氏、岩竹内氏、北観広田氏（ママ）、南観桝井氏、舟清水（ママ）、当番町鶏紅御店、河添氏ノ二人、以上拾壱名山町側ハ会長松村甚右衛門氏外拾九名

午後九時散会ス（経費明細ハ後記）

六月廿八日

六月廿六日補助金之件ニ付庶務課長小西辨次郎氏ニ面談ヲ要スル為市役所へ出頭セシニ課長ハ参事会ニ列席中ノ故ヲ以テ面談シ得ズ依テ庶務課在勤吏員ニ要点ヲ話シ課長へ伝達方依頼シ退庁ス

要件ハ去月庶務課長面談ノ節申シ渡サレタル本年度修繕費予算書提出ノ件ニ付テ本年度ニ於テ修繕ヲ要ス着手セル町ト修繕ヲ要スルモ未着手ノ町トアリ之ガ予算ヲ作製シ提出スルニ於テハ表面上各町ニ平等ニ補助金ヲ配頒スル事ヲ得ザル事トナリ将来ノ補助金支途ニ就テ弊害ヲ生ズル事アルヲ以テ何等カノ条件ヲ附セラル、トモ各町ニ均一ノ補助金ノ下附セラル、様ニシ且該補助金ハ受領年度内ニ於テ必ズシモ支出処分スルヲ要セズ数年積立置キ必要ノ際之ガ支出ヲナスコトヲ得ル様各町ノ事情ニヨリ適宜タルベキ様ニセシメラレ度ク交渉之件及ビ神事モ目睫ノ間ニ迫リタルヲ以テ可及祭礼前ニ補助金ノ交附セラレタキ旨請願シ置キタリ仄聞スルニ課長モ同意ナルカノ如ク吏員ノ話シアリ

七月一日

七月一日船鉾町ヨリ市会議員招待ノ件ニ付テ鉾町ニ於テハ十五、六（又ハ廿二、三）ノ両日ハ非常ノ混雑ヲ来シ待遇不行届ノ点アリ且経費ノ点ニ於テモ各町ニ於テ茶菓ヲ呈スル事ハ却テ経費多額ヲ要スルニ付四条通大丸呉服店又ハ他ニ適当ノ個所ヲ借入レ山鉾ノ巡行ヲ供覧スル様取斗ハレタシトノ希望ヲ以テ尽力方依嘱セラル

七月二日

七月二日前記ノ大丸呉服店借入ノ件ニ付大丸在勤ノ大槁氏（小生ノ知己）ヲ私宅ニ訪ヒ懇談ス

七月三日

七月三日大丸呉服店支配人訪問スルニ当リ当番町代表者トシテ鶏鉾町㊟御店ト同道訪問ノ上交渉致シ度旨当番町河添氏へ以書面通告ス

七月六日

七月六日朝鶏鉾町河添氏ヲ訪問シ去ル三日書面ヲ以テ通知ナシ置キタル㊟御店ト同道大丸呉服店交渉ノ時間ノ打合ヲナス

七月七日

七月七日午後重テ河添氏を訪問セシ所㊟御店単独ニテ大丸呉服店ト交渉セラレタル結果借入不調ノ旨承リ交渉ニ付テノ手違ヒ及不結果ヲ遺憾ニ思フ

同日午前市役所庶務課ヨリ電話掛リ午後早々出頭方通告アリ依テ午後一時出頭課長ト懇談ス

補助金交付ニ当リ左記条件ヲ附ス旨提示セラル

山鉾補助金交附条件

一補助金ハ其ノ町ニ於テ管理セル鉾（又ハ山）修繕ニ充ツル外他ノ費途ニ支出スルコトヲ得ズ

二補助金ヲ支出セントスルトキハ其ノ費途ノ明細書ヲ提出シ予メ市長承認ヲ受クルコトヲ要ス

三補助金ノ交付ヲ受クル者ハ其ノ管理保管方法ヲ定メ予メ市長ノ承認ヲ経ベシ

補助金ヨリ生ズル利子ハ之ヲ元本ニ繰入レ蓄積スベシ

四鉾（又ハ山）ノ修繕ヲ為シタルトキハ其ノ旨市長ニ申出之ガ検査ヲ受クルコトヲ要ス

五交付ヲ受ケタル補助金ノ収支ハ之ヲ帳簿ニ記載シ毎年十二月末日現在ヲ翌月十日迄ニ市長ニ報告スベシ

六市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ吏員ヲ派遣シ会計検査ヲ為サシムルコトアルベシ

七補助金ノ交付ヲ受ケタル者本条件ニ違反シタルトキハ市長ハ補助金ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

八鉾（又ハ山）町代表者ニ異動アリタルトキハ前任者及後任者連署ノ上直チニ市長ニ届出ツベシ

以上

右ハ七月九日京都市指令ヲ以テ条件ヲ各町ニ通告スルヲ以テ指令収受ノ上ハ左記書式ニ(ママ)倣ヒ請書ヲ各町別ニ提出スルコト

請書様書式

山鉾補助金交付条件

一（前掲条件一ヨリ八マデ本文ノ通転載スルコト）

大正十二年七月　日附京都市指令第　号ヲ以テ右条件ノ下ニ鉾補助金参百円（山補助金壱百円）御交付相成候ニ就テハ其ノ条件確ク遵守致スベク御請候也

大正十二年　月　日

鉾（又ハ山）町代表者　氏名　㊞

京都市長馬渕鋭太郎殿

尚補助金交付請求ノ為メ左記書式ノ請求書ヲ提出スルコト

請求書々式

一金参百円也（山ニアリテハ壱百円）

但シ京都市指令第　号ニ対スル補助金

右御下付相成度請求候也

大正　年　月　日

鉾（又ハ山）町代表者　氏名　㊞

京都市長馬渕鋭太郎殿

尚補助金受領ニ当リテハ左記様式ノ領収書ヲ提出スコト

領収書々式

一金参百円也（山ニアリテハ金壱百円）

但シ京都市指令第　号ニ対スル補助金

右御下付相成リ正ニ領収候也

大正　年　月　日

鉾（又ハ山）町代表者　氏名　㊞

京都市収入役　五島藤一殿

追テ請求書及領収書ニ用フル印鑑ハ必ズ同一ノモノタルコト

当方ノ希望トシテハ来ル十三日鬮取ノ日ニ補助金下付相成ル様

急速御取計ヒ方ヲ依頼ス課長之ヲ諾シ指令ハ出来ノ上廿

八通一纏トシテ貴方（小生ノコト）へ持参スルニ付各町へ配布方

依嘱セラル之ヲ領承シ退庁ス

帰路当番町鶏鉾町へ以上ヲ報告シ続テ左記各町ヲ歴訪

シ来ル十日午前中ニ請書、請求書ヲ作製シ拙宅迄提出セ

ラレタキ旨ヲ通告ス

放下鉾町　南観音山町　北観音山町　山当番八幡山町　同油天神山町

七月八日

七月八日左記各町前日ノ事項通告ノ為歴訪ス

岩戸山町、山当番油天神山町（昨日不在ノ為重テ訪問ス又々不在）後チニ面談ス

同日午後大丸呉服店大槁好造氏ニ面接シ重テ同氏ノ紹介ニヨリ

事務部長ニ願意伝ヘタルモ同店トシテハ大阪神戸店ヨリノ申

込モアリ旁々別段ノ席ヲ設ケテ貸ス事ハ不可能ニシテ且茶菓ヲ

呈スル等ノ待遇ヲセラル、事ハ他ノ客人ニ対スル待遇上差別ヲ生ジ

悪シク唯小数ノ観覧券（仝店発行ノモノ）ナラバ都合シテ分譲スベ

クソレトモ一般観客ト同一席ニ於テ同一時待遇ヲスル事トノ条件

ニ付然ルトキハ山鉾町招待ノ主旨ニアラズ却テ被招待者ノ不快感

ヲ招ク事トモナレバ同店借入之件ハ不得止見合ス事トス

夫レヨリ藤井大丸ヘ交渉セシモ同店モ毎年定マリタル申込観

覧者アリテ更ニ多人数ノ観覧席ナク僅々四五名位ナレバ都合付ケル

旨ノ回答ニ付是レ又不得止事ニ付先月連合会席上ニ於テ決

定セル各町毎ニ観覧券ヲ発行シテ各町ヘ招待スル事トナスノ

外他ニ適当ノ方策ナシ

七月九日

七月九日午前寺町大雲院門前借入方交渉セシモ同寺院ニ

於テハ毎年檀信徒観覧席トシテ供給シ余席無之旨ノ故ヲ

以拒絶セラル

同日午前市役所へ電話ヲ以テ指令書至急交付方請求シ併
テ左記ノ件照会ス
下付条件中（ニハ明細書提出ヲスレバ直チニ承認セラル、ヤ又承
認書ノ交付ヲセラル、ヤ（可及的早ク承認書ヲ交付スルトノコト）
（三）管理方法ハ可成的各町一定ノ方法ヲ講シ度ニ付補助金
受領後方法協議之上承認ヲ求ムルコトトシテハ如何（市長課
長主任不在ニ付後刻返事ストノコト）
（四）修繕後検査ハ直チニ了セラル、ヤ検査遅延ノ為庫へ収蔵
シ難ク為ニ長ク放置シ置ク如キハ困難ニ付如何（通告後可及
的速カニ取計ヒ何分ノ沙汰スル事トスル旨返答アリ）
指令ニ対スル請書、請求書、領収書等ニ用フル用紙ハ何
等規定ナキヤ（何レニテモ任意トノコト）
領収書ニ収入印紙ノ貼付ヲ要スルヤ否ヤ（不要トノコト）
同日午後庶務課ヨリ電話掛リ本日指令届ケル故各町へ
配付スベキ事ヲ申サレ午前照会ノ条件中（三）ニ対ス管理
方法ハ請書ト同時ニ提出セラレタシトノコト依テ当方ノ希望
トシテハ補助金受領後各町協議会ヲ開キ申告シタキ旨
申タルモ目下市長及課長東上不在中ニ付右様取計ヒテ
後日叱責ヲ受クルコトアリテハ困却スル故単ニ形式的ニ管理
方法ノ申告ヲナスベキ様トノ回答アリ尚下付金ハ来ル十三日
交付セラタキ（ママ）様希望ヲ述ベシニ来ル十一日迄ニ請求書其他ノ
書類提出セバ其取計ヒナスベキ旨返答（後ニ再度電話ヲ以テ）
アリタリ
同日午後四時左記同文ノ指令ニ交付条件及同請書様式
ヲ添ヘテ廿八通市役所ヨリ到達ス依テ外ニ請求書、保管
届書、領収書様式ヲ添ヘ明十日午前中ニ拙宅迄書類
取揃ヘ提出セラル、様回文ヲ添ヘ各町へ配付ス因ニ山町分ハ
当番町藤木万助氏、村井信次郎氏へ持参シ配分方依頼ス

京都市指令庶第二一四二号

船鉾町代表者
清水良亮

大正十一年十二月二十一日附願鉾修繕費中ヘ左記条
件ヲ附シ金参百円ヲ補助ス

大正十二年七月九日

京都市長　馬渕鋭太郎　印

但シ交付条件及請書々式ハ前記載ノ通リニ付略ス
右指令前到達前ニ月鉾町、函谷鉾町ヲ訪ヒ去ル七日庶務
課ヘ出頭セシ要件ノ報告ヲナス長刀鉾町ヘモ報告スベキ筈
ノ処指令配付相受ケタル故之ガ配分ヲ急グ為同町ノ訪
問ヲ見合シ帰宅シ指令ノ配分ニカ、ル追テ後刻指令配分ノ
際書面ヲ以テ詳報ス以上配分ヲ了シタル時午後八時十分

七月十日

午前中ニ南山町十二ケ町分鉾町（長刀、函谷、月、放下、観
音山両町分、船）七ケ町分書類纏リタレトモ他未調ニ付午
後之ガ取纏メ午後二時三十分市役所へ出頭二十八ケ町分
書類提出ス書類ハ請書、請求書ノ外ニ左記同文ノ
届書ノ三通ヲ提出セリ但シ函谷鉾町ハ支途明細書ヲ

提出セラレタレバ届書ナシ鶏鉾町ハ同時刻迄ニ届書
未調製ニ付翌朝同町ヨリ直接提出セラル、コトトシテ
同町分ハ請書及請求書ノ弐通ヲ提出ス

御届

大正十二年七月九日付京都市指令庶第二一四弐号ヲ
以テ御下付相成候補助金ハ株式会社三井銀行京都
支店特別当座預金トシテ保管蓄積可致候ニ付御承
認相成度此段及御届候也

大正十二年七月十日　鉾（又ハ山）代表者　氏名　㊞

京都市長馬渕鋭太郎殿

追テ右ハ課長東上中ニ付難波宗治殿ニ相渡シ来ル十三日
下付相成度旨依頼シ退庁ス

七月十一日

市会議員、市理事者招待状封筒表書ヲナシ当番町ヘ
回付ス

七月十二日

市役所庶務課ヨリ電話懸リ山町鉾町代表者住所ノ
尋合ニ接シ各町ノ住所回答ス
同日夜仝役所会計課ヨリ補助金ノ儀明十三日午前
九時三十分ヨリ午後一時三十分迄ノ間ニ交付ス依テ通知
書及印形持参セラレタキ旨ノ通知各町ニ到達ス

七月十三日

前日ノ通知書ノ文面ニ拠ルトキハ各町毎ニ市役所ヘ出頭
シテ補助金ヲ受領スベキ事トナリ多数人ノ煩ヲ招クニ付
予テ去ル七日庶務課長ノ領解ヲ得タル如ク代表者一
人出頭シ補助金ノ交付ヲ受ケ而シテ之ヲ各町エ配分
スル様ノ取計ヒヲ乞フ為課長自宅ヘ（早朝ノ事トテ出勤
前ナレバ自宅ヘ通電ス）電話ヲ以テ其旨通ゼシ所領承
セラル仍テ各町ニ到達セル通知書（ハガキ）ヲ纏メ且予テ
十日ニ纏メアル各町ノ領収書ヲ持参午前十時三十分
会計課ヘ出頭シ鉾九ケ町分補助金弐阡七百円受領ス
猶併テ庶務課ヘ立寄難波氏（課長市会ヘ出席ノ為）ニ対
シ此程ノ労ヲ謝シテ退庁直チニ右補助金各町ヘ配分ス
因ニ山町ハ本日午後二時鬮取ニ付テ各町代表者市役所ニ
参集セラル、故同時ニ補助金受領セラル、事ト打合セ置ク
去月十五日山鉾町連合会費用ハ去月末日夫々支払ヲナシ
其計算書ヲ当番町ヘ回付シテ徴収方ヲ依嘱シ置キ
タル処本日全部徴集済ノ故ヲ以テ取替金ノ還附ヲ
受ク其経費左ノ如シ

一金壱百参拾九円拾銭　中村楼支払

内訳　一二四、〇〇　御膳卅一人分　三、〇〇　酒番配膳　御膳三人分
〇、七五　サイダー　六、九〇　折箱代
四、〇〇　配膳二人　〇、四五　使

一金拾五円八拾壱銭　白鶴九升三合代
一金参円也　八坂神社祈祷料

一金九円也　　諸祝儀心付
計金壱百六拾六円九拾壱銭
　内三分ノ一　鉾町負担金五拾五円七拾銭
右鉾町負担金ヲ十人ニ割当（鶏鉾町二名出席ニ付）各町
金五円五拾七銭宛徴集ス（外ニ鶏鉾町御取替ニ係ル市会議員招待状
　　并ニ封筒印刷代ノ割前一ケ町六十八銭ツヽ、
本日左記案内状ヲ観覧券九枚ヲ同封加入シ左記ヘ発送
ス但シ発送方ヲ当番町ヘ委托ス市理事者ノ分ハ今朝出
頭之際難波氏ニ渡シ配分方依頼ス
市長、助役多久安信殿、収入役五島藤一殿、庶務課長
小西辨次郎殿、秘書係長後藤末久殿、庶務課在勤
（補助金ノ件ニ付労ヲ取ラレタル）難波宗治、大久保ノ両氏、
清々講社幹事宛壱組、同前幹事大森義一殿、八坂
神社宮司江見正風殿、市会議員五拾弐名
拝啓京洛ノ盛夏気分ヲ味フベキ祇園会ト相成候処
愈々御建（ママ）祥奉賀候扨テ例年之通リ山鉾建設致
シ候ニ付来ル七月十五日正午ヨリ十六日中（両日夜間共）随
時御観覧ノ栄ヲ得度此段御案内申上候
　大正十二年七月　日　　祇園会鉾町会
清々講社幹事宛本日補助金受領ノ旨以書面通知
旁々挨拶状ヲ発送ス

八月七日

予テ三井銀行ヘ定期預金トナシ置キタル各鉾町信認金本
日満期日ニ付左之通リ各町ヘ払戻ス

一金壱百円也　　信認金
一〃弐円八拾五銭　年六分六ケ月間利子内拾五銭所得税引
計金壱百弐円八拾五銭ツヽ、割戻シ
右信認金割戻シト同時ニ各町交互ニ取交シタル契約書ノ返還
ヲ受ケ本請願ニ付テノ事務一段落トナリタルヲ以テ昨年互選
ニ依ル委員ヲ解任ノ旨各町ニ通告ス（然ルニ其後次々ニ用件続発シ実
　　際上辞任不可能ノ為引継キ事務ヲ執ル
追テ未解決ノ清々講社ニ対スル補助増額申請ノ件ハ本年
五月一日仝社幹事ニ面談シ申請ニ対シ同月十四日回答アリタル
文面ニ依ルモ来ル九月同講社々長会議ノ際熟議セラル、筈
ニ付此件ニ関シテハ当番町ヨリ適当ノ交渉ヲセラレタク委
任シテ本請願ノ事務ヲ打切トス

仝日

市役所庶務課長小西辨次郎氏ヨリ庶乙第六七号ヲ以テ
山鉾補助金交付条件ニ違反スル向有之様被存候ニ付該
条件遵守セラルベキ様注意方通牒ニ接ス（同一文面ノモノ各
町ニ到達ス）

八月九日

清々講社幹事宛左記請願書ヲ提出ス
　　請願書
昨大正十一年七月十六日及同年十二月九日付書面ヲ以テ
請願候山鉾巡行補助増額之件ニ付更ニ本年五月
一日各町ノ窮状陳述候如クニ付明大正十三年ヨリ従来

御下付相成居候補助金ニ対シ五割御増額相成度
此段請願候也
大正十二年八月九日　鉾当番町　河添秀次郎　㊞
鉾町委員　清水良亮　㊞
山当番町　木賊山町　森友七　㊞
山当番町　鯉山町　澤田（ママ）あい　㊞
清々講社幹事御中

仝日

午後一時市役所庶務課へ出頭シ去ル七日通牒ニ接シタル件ニ付課長ト協議シタ〆キ旨通ジタルニ課長東上中ニ付同課吏員難波、大久保両氏ト談合ス追テ課長帰京之上ハ電話ヲ以テ通知セラル、様依頼シ其上課長ト面談スル事トシテ退庁

八月十三日

朝市役所ヨリ電話掛リ課長帰洛ノ旨通知アリ依テ明十四日出頭面談スベキ旨申込置ク

〃十四日

午前十時半市役所へ出頭シ課長ニ面談ス二、三ケ町ヨリ届書提出セラレタルモ直接山鉾ニ関スル修繕ト認メ難キモノアリ依テ補助金支出ニ就テハ直接山鉾ニ関係アル修繕ノミニ支出セラル、様注意セラレタシトノ事ニ付其範囲ニ付応答ヲ重ネ可及的広義ノ範囲ニ解釈セラレ度旨陳情ス因ニ課長ガ之ガ支途ニ付テ特ニ注意セラル、ハ下付初年度ニ於テ余件ニ対シテ違反ノ向アル時ハ為ニ市会議員ニ反対ノ動機ヲ与ヘ今後補助金ノ下付否決セラレンコトヲ慮リ居ラル、ニ依ルヲ以テナリ猶明年度修繕予算書ヲ可成九月三十日迄ニ提出セラレタシトノ希望ヲ述ベラレタリ之ハ市会ニ於テ応答ノ参考ニ供シ度キ為メトノ事ニ付之ヲ諒シ同十一時半退庁

午後函谷鉾町吉川氏、放下鉾町清水氏ヘ先ニ提出セラレタル届書ニ不備ノ点アリ訂正再提出方通知ノ為訪問ス

鶏鉾町ヨリ先キニ提出セラレタル修繕明細書ニ記載ノ分ハ鉾修繕ト認難ク従テ市当局ノ承認シ難キ旨通告アリタル事ヲ報告ノ為河添氏ヲ訪問ス

岩戸山町竹内氏ヲ訪問シテ同町修繕ニ関スル届書々式ニ関スル報告及当局ノ意志ヲ伝達ス

山当番町木賊山町森友七氏ヲ訪問シテ今朝課長ノ希望ニ因ル明年度修繕見積書ノ取纏方ヲ依嘱ス（但シ町十二ケ町分）併テ過日同町ヨリ提出アリタル修繕届書不承認ニ関スル市当局ノ意志ヲ伝達ス

八月十七日

各鉾町及山当番町鯉山町沢田あい殿ヘ課長ヨリ依嘱セラレタル明年度修繕見積書ノ提出方ヲ通達ス

九月廿七日

本日迄ニ纏リタル明十三年度山鉾修繕見積書ヲ市役所ヘ提出

ス提出セル見積書町別、長刀鉾町（三五九円）、北観音山町（九〇〇円）、
南観音山町（五一〇円）、橋弁慶山町（六、八〇〇円）、行者山町（三、〇〇〇円）、
常明山町（五〇〇円）、鯉山町（一八〇円）、黒主山町（五〇〇円）、八幡山町（五〇〇円）、
山伏山町（五七六円）、孟宗山町（一〇五円）、霰天神山町（三四三円四〇）、太子山町
（二六〇円）、以上十三ケ町、月鉾、岩戸山、鈴鹿山ノ三ケ町ハ明年度修繕ナキ見
込ノ由其他十二ケ町ハ未提出ニ付不明
昨年来本件ニ関スル経費左ノ如シ（但シ清水立替仕払分）

一参円也　請願書作製船岡氏謝儀
一九銭　右用紙美濃罫紙十枚代
一壱円五拾銭　三月三日清々館ニ於テ山鉾連合会開催ニ際シ　炭料ト心付
一参円弐拾銭　右当日菓子代　柏光定払
一参拾銭　市参事会拾名挨拶状切手代
一壱円八拾銭　市会議員ヘ挨拶状紙刷印代共六十枚分
一壱円五拾九銭　右発送郵券　五拾三枚分
一九拾五銭　半紙罫百枚　杉原封筒代等
一弐円也　大槁好造氏ヘ進物菓子代
計金拾四円四拾参銭也　大正十二年九月廿三日河添氏ヨリ御返金
相受正ニ収受ス因ニ鶏鉾町御立替ノ分ヲ合シテ一ケ町割当
負担額金弐円七拾六銭

十月五日

昨四日夜清々講社幹事ヨリ補助金ノ件ニ付協議致シ度
清々館ヘ参集方ヲ申越サレタル由ノ処不肖当時病気
療養中ノ為乍遺憾欠席ス河添氏、山当番町森友七氏、
澤田（ママ）氏、以上三氏御出席其要点ハ去月一日関東地方ニ突
発シタル震災ノ為挙国一致諸事節約ノ折柄神事費ノ増
徴ハ全然不可能ノ場合ニ付明年度補助金ハ本年度通リノ
金額ヲ以テ承認セラレ度シトノ事ニ付追テ協議シ七日中ニ
何分ノ回答ヲナス旨ヲ告ケテ散会セラレタル由本日河添氏
ヨリ御報告ヲ受ク依テ明後七日午後一時ヨリ於拙宅総
会ヲ開キ之カ対策ヲ講ズル事ト河添氏ト合議ス

十月七日

午後一時ヨリ於拙宅鉾町会議ヲ開ク出席者長刀國井氏、函谷
吉川氏、鶏河添氏、月槁本氏、放下清水氏、岩戸竹内氏、北観音中西氏、
南観音桝井氏、外ニ山会町松村氏、山町代表田中氏、協議要項左ノ如シ
一震災ノ為神事費増徴不可能ノ為従テ補助金増額相成
難キ場合ハ明十三年度神事山鉾巡行御遠慮可申事
一震災後諸事節約ヲ要スル際ニ付明後十四年度ニ於テ五割
補助増額相受クル事ト約シテ明年度ハ現在ノ弐割五分増シ
ニテ予算御作製ヲ請願ノ事（以上清々講社之分）
一去月廿七日市役所ヘ出頭ノ際庶務課長ノ談ニ毎年予算ニ補助
金ヲ計上スルノ煩ヲ省キ五年或ハ十ケ年計画トシテ修繕ヲ要ス
ル見積書ノ提出ヲ受ケ之ニ対シ右期間内毎年一定ノ補助金ヲ
交付スル様取計フ方相互ノ手数ヲ省キ好都合ト思考ス如何
トノ件ニ付協議結果今早急ニ長年月ニ渡ル修繕ノ見積作
製不可能ノ事情モアリ且又震災後諸事節約財政緊縮
ヲ要スル際ニ敢テ巨額ノ補助金交付ノ請願ヲナスモ不穏ニ付

明年度ニ於テハ本年通リ補助金交付相受クル事ヲ請願スル
事ト協議決定ス

十月八日

昨日ノ協議ニ基キ左記文章ヲ作製シ調印ヲ求ム
去ル八月九日附請願候ニ対シ本月四日御内示ヲ蒙リ候ニ就
テ直チニ山鉾町会総会ヲ開キ協議致候処左記ノ如ク
決議仕候条御賢察ノ上可然御取計被成下度御願申上候
一御内示ノ趣拝承仕候ニ就テハ明後大正十四年度ニ於テ本年
度補助金額ノ五割増額ヲ御承認下サレ候事ヲ得バ明大
正十三年度補助金ニ対スル増額申請歩合ヲ弐割五分ニ
改訂引下ケ請願候事
一関東地方震災後ノ故ヲ以テ神事費ノ増徴相成難ク従
テ補助金ノ増額全然不可能ノ御事情ニ候ハヾ明年度ニ限リ
震災ノ為山鉾巡行ヲ御遠慮申上ケ休止可致事ト御協議
ノ上御決定相成度候事
右御回答旁重テ請願候也

大正十二年十月九日　鉾当番町鶏鉾町　河添秀次郎　㊞
鉾町委員舟鉾町（ママ）　清水良亮　㊞
山会長　松村甚右衛門　㊞
山当番長鯉山町　沢田あい　㊞
山当番町木賊山町　森友七　㊞

清々講社幹事御中

十月九日

山会長代理田中氏、鉾町代表清水両人同道八坂神社へ出頭シテ
清々講社幹事寺村氏、半井氏ニ面談シ前記請願書ヲ提出
シテ且口頭ヲ以テ事情陳述ス尚同社宮司及清々講幹事ニ対
シ左記願書ヲ提シ将来ノ事ニ付考慮ヲ煩サンコトヲ希フ而シテ
之カ方法等ニ就テ意見ヲ交ヘ退散ス

請願書

茲ニ敢テ書ヲ座右ニ上リ例年当八坂神社私祭ニ資
スル山鉾巡行ノ将来ニ関スル件ニ就テ切ニ官幣大社八坂神
社宮司閣下并ニ氏子ノ代表機関タル清々講社幹事諸
賢ノ考慮ヲ仰カントス
此古典的ニシテ優雅ナル祇園会山鉾巡行ハ唯ニ氏子ノミ
ナラズ全市民ノ等シク渇仰スル所且亦本市繁栄策ノ一ト
シテ見ルモ其価値没スベカラズサレバ私祭当日ノ如キ国ノ
遠近ヲ問ハズ洋ノ内外ヲ論セズ来観スル群集其数幾
十万ナルヲ知ラズ以テ其壮観タル之ヲ他ノ神社私祭ニ比スル
ニ大ニ其趣ヲ異ニスルアルハ諸賢ノ夙ニ知悉セラル、所ナルベシ
然ルニ之カ巡行ニ要スル費額ハ累年嵩ミ来リ毎年受ク
ル補助金ヲ控除スルモ尚費額甚大ナリ而モ現在ノ山鉾
ハ文政天保ノ頃大修繕ヲ施シ其後小修繕ヲ加ヘツ、現今
ニ至リシモノニテ爾来百年ノ星霜ヲ閲シ破損ノ個所頗ル多
ク近ク大修繕ヲ加ヘサレバ巡行ヲナシ能ハサル状態ニアリ然
ルニ此大修繕ニ要スル費用ト毎年ノ巡行ニ要スル費用ト
ヲ僅小ナル山鉾町ノミノ負担ニ竢タンハ至難ノ事ニシテ此侭

ニ推移セバ近キ将来ニ於テ該神事廃止ノ止ムナキ至ラン
事必然ナリ宇内無双ノ麗タル此古典ノ亡ヒシ後ノ本市夏季
ノ寂莫ニ想到センカ転タ感慨ニ堪ヘザルモノアラン況ンヤ敬
神ノ道ニ背ク所アルニ於テヲヤ
冀クハ諸賢ノ裁量ニヨリ之ガ山鉾町ノ山鉾巡行ニアラサル所
以ヲ諒セラレ氏子一般ノ協力ニ竢チテ当神事ノ永ク存続シ得
ベキ方策ヲ今ニ於テ建テラレンコトヲ茲ニ山鉾町代表者連
署ヲ以テ伏テ懇願ニ堪ヘサル所ナリ

大正十二年十月九日　山町会々長　松村甚右衛門　㊞
鉾町会代表者　清水良亮　㊞

官幣大社八坂神社宮司江見清風殿
清々講社幹事御中

十月廿九日

蘆刈山町提出ニ係ル明年度修繕見積書携帯市役所ヘ出頭シ
去ル七日決議ノ明年度予算就ハ本年度通リ補助金計上方
依頼ス継続ニ係ル見積ハ目下作製不可能ノ故ヲ併テ申告ス
明年度修繕見積書未提出ノ町アリ至急取纏メ方ヲ依頼
セラル仍テ回文ヲ以テ未提出ノ十四ケ町ヘ通告ス

十一月七日

去ル三日以来未提出町ヘ見積書ノ提出方督促シ漸ク左記
五ケ町分纏リタルヲ以テ依頼文ヲ添ヘ取敢ズ庶務課長小西
殿宛郵送ス尚鶏鉾町ヨリ修繕済ノ届書提出セラレタル
ヲ以テ同封シテ回送ス
鶏鉾（三一五円）、放下鉾（一、四三〇円）、岩戸山町（九〇〇円）、但シ車四枚及真
棒代二、三二一円〇七ノ内一一二、〇七円町積立金ヲ支出残一二〇〇ノ内本年ノ補
助金ヲ充当残リ九〇〇円トナル因ニ同町ハ明年度ノ新修繕ハナキ由ナリ
船鉾町（水引一〇〇〇円埒囲一、五〇〇円、計二、五〇〇円）十三年以後十五年迄ノ
継続事業（木〇〇〇用月鉾町（六〇〇円常掛雨具胴巻修繕費）

十一月九日

去ル六日左記請願書ヲ作製シ各町ノ調印ヲ求メタル処本
日全部ノ調印完了ニ付午後壱時市役所ヘ出頭シ提出ス同時ニ
伯牙山町明年度修繕見積（四〇〇円）書及承認請求書以上弐
通提出ス因ニ左記各町ハ明年度修繕無之旨当番町ヨリ通
告アリタル故其由書面ヲ以テ申告ス
修繕ナキ町　鈴鹿山　保昌山　白楽天山　木賊山　郭巨山　占出山
油天神山　岩戸山

祇園会山鉾ニ関スル補助金下附請願書

公務御多繁之際敢テ書ヲ上リ祇園会山鉾巡行ノ神事ニ
供スル山鉾ノ保存維持并ニ修繕ニ要スル費用ノ件ニ関シ重
ネテ閣下ノ御採択ヲ仰カントス
昨大正十一年十二月二十八日附ヲ以テ之ニ関スル補助金ノ下附ヲ請
願セシ処幸ヒニ閣下ノ御裁量ニヨリ本年七月九日附指
令ニヨリ該補助金ヲ下附セラレタルコトハ我等山鉾町ノ最
モ欣幸トスル所ナリ然レドモ之ガ保存并ニ修繕ニ関シテハ

唯ニ本年ヲ以テ終結スルモノトニアラズ今後年々修繕維持
ヲ要スルモノナルコトハ賢明ナル閣下ノ夙ニ知悉セラル、所ナル
ベシサレバ先キニ請願ノ当初ニ於テ毎年之ガ補助金ヲ下附
セラレンコトヲ懇願セシ所以ナリ
冀クハ明大正十三年度ニ於テモ鉾九基ニ対シ金弐阡七百
円山拾九基ニ対シ金壱阡九百円合計金四阡六百円ノ市
公費補助セラレンコトヲ茲ニ該補助金使途明細書ヲ添
附シ山鉾町代表者連署ヲ以テ伏シテ懇願ニ堪ヘザル所
ナリ
大正十二年十一月十日　山鉾町代表者連署
京都市長馬渕鋭太郎殿

十一月十三日

市役所庶務課ヨリ鶏鉾町提出ノ修繕届ニ不備ノ点アルニ付
書替提出方申越サレタル故即時同町河添氏ヘ通告ス

大正十三年一月四日

山鉾補助金交付条件第五項ニヨル申告書来ル九日迄ニ提
出方各山鉾町ヘ通達ス

一月十日

申告書取纏メ市役所ヘ持参ス猶岩戸山町、霰天神山町届
書再調提出方伝達相受ケ夫々即時伝達ス

三月廿三日

本年度予算委員会ノ形勢不利ナル趣伝聞ス依テ山鉾町ノ
協議会ヲ開催シ度八坂神社、清々講社幹事、各鉾町山町
当番ヘ明廿四日八阪(ママ)神社々務所ヘ午後二時参集方通達ス

廿四日

午後二時八坂神社々務所ニ於テ集会開催ス出席者、清々講
社ヨリ寺村、半井、中林ノ三氏、鉾町ヨリ函川俣氏、鶏河添氏、放下
清水氏、岩北澤氏、北観吉田氏、南観沢村氏、舟(ママ)清水、山町、鯉山町沢
田氏、以上拾壱名、市会予算委員ヘ陳情方ニ付協議シ各自
知己ニ拠リ運動スル事トシ外種々意見ヲ交ヘ五時散会ス
席上清々講社ヨリノ補助金増額之件尋合セタルニ左ノ如ク増
額スル事ト決議セラレタル由回答アリ
鉾壱基ニ付甲四百六拾七円　乙四百・八円　稚児費百拾円
山壱基ニ付八拾四円但シ昨年ノ補助金ニ対シ壱割六分六厘
ノ割合ノ増額トナル
猶本日ノ欠席者ニ対シテハ書面ヲ以テ通告ス因ニ本年市会予
算委員氏名左ノ如シ　苗加房三郎、西村金三郎、
野村與兵衛、鎌田直次郎、西尾林太郎、田畑庄三郎、
前田嘉右衛門、野村権右衛門、百木伊之助、伊藤豊之助、
田中新七、小西嘉一郎、伊藤平三、時岡利七、
安田種次郎、以上十五氏

廿五日

清々講社幹事寺村氏ヨリ市会ノ模様ニ付テ通告ヲ受ケ且ツ委員歴訪ニ就テ御注意ヲ承ル

廿六日

八坂神社宮司ヨリ予算委員ニ対スル懇談之件ニ付種々御意見承ル

廿九日

本日市会ニ於テ大正十三年度補助金可決セラル

卅日

市会ニ於テ可決ノ旨各山鉾町ヘ通告シ併テ清々講社幹事及八坂神社宮司ヘ挨拶状発送ス

六月五日

八坂神社ニ参拝祈念ヲナシ中村楼ニ於テ第二回山鉾連合会ヲ開催ス当日山鉾町出席者廿六ケ町（長刀鉾及山町壱ケ町欠席）外ニ松村山会長及来賓目片俊三氏出席セラル備考予テ左記諸氏ヘ招待状発送セシニ何レモ差支ノ為欠席セラル　馬渕市長、小西庶務課長、難波宗治殿、寺村清清講（ママ）社幹事、以上当日費用明細ハ当番町記録ニアリ

六月廿一日

市役所ヨリ市指令庶第壱七参五号ヲ以テ補助金参百円（山ハ壱百円）交付ズ（ママ）ベキ旨ノ通告アリ仍テ該指令書ヲ各山鉾町ヘ配布ス同時ニ請書、請求書、補助金管理法届書ノ三通ヲ至急提出セラルベキ様ニ各町ヘ通告ス

六月廿七日

去ル廿一日各町ヘ通告セル書類漸ク全部纏リタルヲ以テ之カ提出ノ為市役所ヘ出頭庶務課ヘ該書類ヲ提出ス

請書（左記文案ノ通）、請求書及保管法届書（昨年提出ノ書式通南観音山町ガ住友銀行ヘ預金セル、ノ外ハ全部三井銀行）ノ三通宛但シ左記四ケ町ハ保管届書ノ提出ヲナサズ（即チ修繕費支出方申請ノ書類ヲ添付セリ）

請書（文案写）

大正十三年六月廿一日附京都市指令庶第壱七参五号ヲ以テ鉾修繕費補助金参百円御交付相成候ニ就ハ大正十二年七月九日附京都市指令庶第弐壱四弐号記載ト同一条件ヲ確ク遵守可致御請候也

大正十三年六月廿七日　　町代表者　氏名　㊞

京都市長馬渕鋭太郎殿

同日修繕届提出町左記ノ通

一函谷鉾町　五百円　前掛コブラン織　天王様装束見送　天水引真木山形ト関所　修繕

内訳　参百円拾三年度補助金支出　弐円弐拾五銭十二年度補助金支出
残高　百九拾七円七拾五銭　町負担
一月鉾町　五百八拾円　鉾雨覆用胴巻四枚　新調
内　参百円大正十二年度補助金支出　弐百八拾円十三年補助金ノ内支出　残金ハ三井銀行ヘ預金ス
一鶏鉾町　四百円　胴巻四枚　水引壱枚修繕
内　参百円本年度補助金　弐拾三円前年度補助金支出
残金七拾七円　町庫ヨリ支出ス
一岩戸山町　弐阡三百弐拾壱円〇七銭　車四枚　真棒弐本代
内　壱阡壱百弐拾壱円〇七銭　町庫ヨリ支弁
残　壱阡弐百円借入金之内六百円昨年及本年補助金支出

七月三日

市補助金交附スベク出頭方通告ヲ受ケタルヲ以テ各町ノ領収書ヲ取纏メ市役所出納課ヨリ金四阡六百円ヲ受取リ各町ニ配分ス領収書宛名ハ昨年ハ収入役宛ノ処本年ハ庶務課ヘ照合ノ結果市長宛トナシ提出ス
油天神山町岸田平助殿印鑑不備ニ付同町ヲ除キ四阡五百円受領シ同行セル湯浅氏ヘ七百円山田氏ヘ阡壱百円相渡ス岸田氏ノ分ハ山当番山田氏ヘ依頼シ書類再提出シ補助金受領セラル、様取計フ

七月十八日

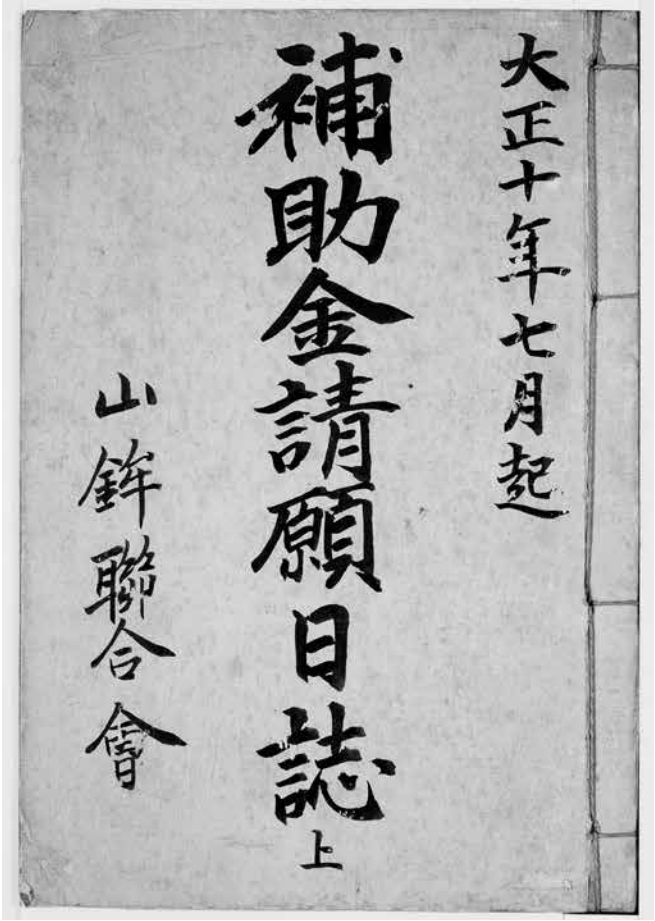
去ル六月廿七日附請願ノ左記修繕ノ件承認ノ書類三通市役所ヨリ交付セラル仍テ各町ヘ配布ス因ニ同日提出ニ係ル月鉾雨覆修繕ノ件不承認ニ付電話ヲ以テ交渉ス課長ト談合之上追テ回答ヲナス旨ノ返事アリ承認保留
承認セラレタルモノ函谷鉾町参百弐円弐拾五銭、鶏鉾町参百弐拾参円、岩戸山町六百円（以上三ケ町共補助金残金ナシ）

八月五日

伯牙山町山組立木柄枠修繕金八拾五円参拾銭補助金支出方承認請求書携帯市役所ヘ出頭シ伝達ス
同時ニ月鉾町前記不承認之件ニ付交渉ノ為出頭ス

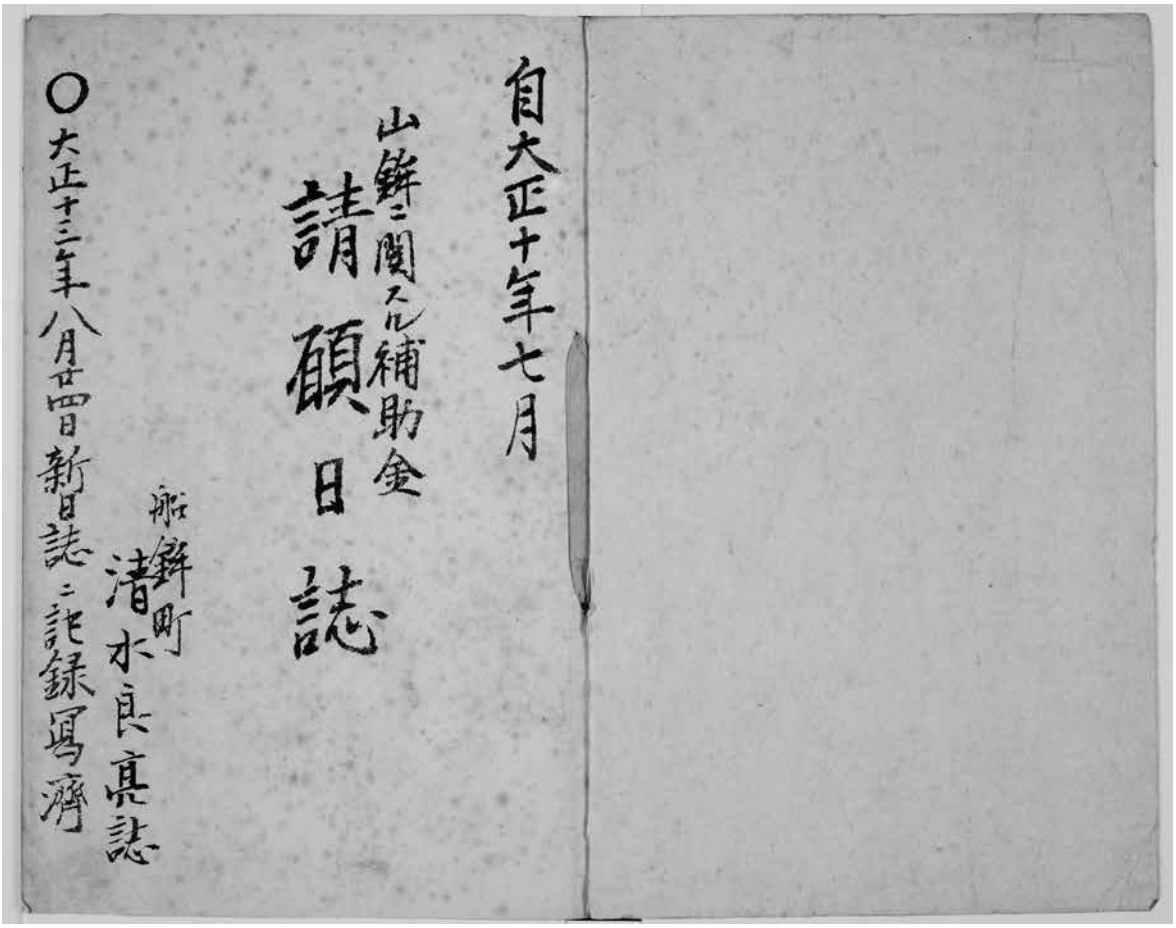
〇以後ノ日誌ハ引続キ清水手元ニ於テ記録中

『補助金請願日誌 上』（写真）


大正十年七月起

補助金請願日誌 上

山鉾聯合會


自大正十年七月

山鉾ニ関スル補助金

請願日誌

○大正十三年八月廿四日新日誌ニ記録寫濟

船鉾町

清水良真誌

大正十年
七月

補助金請願日記

大正十年七月船鉾町發起ニヨリ當市ヨリ毎年鉾保存維持ニ要スル費用ニ対シ補助金下附請願之件ヲ文書ヲ以テ各鉾町ヘ回達シ其賛成ヲ求メシニ各町共賛成ノ意ヲ表セラレ夫々代表者ノ調印ヲ受クル之年十月中旬ニ至リテ各町ヘ調印ヲ了シタリ

大正十年七月九日

大正十年七月九日船鉾町清水良真宅ニ於テ第一回鉾町集會ヲ開催ス出席者左記鉾町代表者及船鉾町常務委員木村勘兵衛西垣清八、月所俊三、小麦安之丞四氏

長刀鉾町　相賀氏、　函谷鉾町　十倉氏、　月鉾町　橋本氏

鶏鉾町川端氏、　放下鉾町　清水氏　岩戸山町　中西氏

北観音山町奥様　南観音山町榊井氏　船鉾町　清水

請願方法其他ヲ協議シ実行委員ヲ選挙ヲ投票ヲ以テ行フ

結果　船鉾町八票　長刀鉾町八票　函谷鉾町六票

放下鉾町六票　北観音山町六票　以上当籤

次点　鶏鉾町三票　月鉾町三票　南観音山町三票

岩戸山町二票

委員ハ請願書ヲ作成シ近日一ノ代表者ヲ選定シ其実行ヲ期スル事ト約ス　午前九時集合午後ノ時半散会

七月十二日

七月十二日午前九時船鉾町會議所ニ於テ第一回委員会ヲ

ナカガワ

七月十六日

開ク出席者　函谷鉾町吉川忠七氏　放下鉾町清水良真氏

北観音山町廣田聽介氏　船鉾町清水良真氏（長刀鉾町欠席）

協議ノ上清社幹事大森義一氏、陳情シ且ツ氏ノ意見ヲ聽取スベク委員同道ノ上日氏宅ヘ出向ク会見ノ結果

大森氏ノ意見ニ従ヒ書類ヲ以テ清社ヘ鉾ノ保存ニ付金壱千円ノ補助金下付ノ願書ヲ出シ若シ右金額清社ニ於テ下付ノ見込ナキ時ハ適当ノ方策ヲ講セラレタキ旨陳述スルコトニテ委員散解ス因ニ長刀鉾町ハ藤井氏ハ吉川氏ヨリ此旨伝ヘラル

十六日　昨委員会協議ニ基キ大森氏ノ意見通リ願書ヲ作製シ五ツ町委員連名ヲ以テ大森氏迄請願書ヲ提出ス

十二月二日

十二月三日 強テ昨年七月十二日付諮詢ノ件ニ付テ後西ニ回答ス
氏宅ニ出向テ法ニ講社ヨリノ回答ヲ促セシニ本日迄何等回答ヲ
ノ漸クニテ本日八坂神社ニ殺所ヘ出頭スベキ様ナ通知国井
為吉高氏ヘ同者モリ伺ヲ委員中ノ吉川安氏及法ノ良亮氏
鋳所ヲ代表シテ出頭スル日日山所ヲ代表シテ油天神ノ所小山氏並
宗山所田中氏同席セラレ法ニ講社側ハ大森氏并其氏ノ二名ト
回見ス法ニ講社ノ回答ノ要点ハ日社トシテ目下増額不可能ニシテ
且又財界不況ノ折柄氏子ヨリノ増徴（神ノ費）モ容易ニ難ク又他
ニ適当ナル策モ立テ難ク又ハ鋳所ニ於テ再協議ヲナスベキ
様且再請願ノ際ハ従来ノ補助金ニ対シテ何割ノ増額ヲ要

（イ）

ナカガワ

十二月五日

望スルモノト割合額ヲ申出セヨトノ回答ニ接ス鋳所ヨリハ恒
久的ノ根本策トシテ当市ヨリ補助金下附ノ請願ニ対シテ特
御考カヲリタク不日鋳所協議ノ上再願書提出スベキ旨ヲ告ゲテ
散会ス

十二月五日（午後七時より） 鋳所ニ法ノ良亮氏ニ於テ第二回委員会ヲ開ク
出席者長刀鋳所 根岸氏 西茶鋳所 吉川氏 故下鋳所 法ノ氏
北敷地所 廣田氏 船鋳所 法ノ江上五名 協議ノ結果左記ノ
請願書ヲ作製五名委員連署ヲ以テ提出スルコトヲ
請願書（法ノ講ヲ提出セル書）
去ル七月十二日付請願ニ対シ本月二日御回答ニ接シタル件更ニ

左記ノ通請願ニ及ブ事ニシテ御取計ヒ願ヒ度
一、鋳業存続維持ノ為本市ヨリ毎年補助金下附ニ成ル様願ヒ
度 右理由ヲ詳述ス事
一、前項補助金下附ニ成ル難キ場合ハ祈願ヲ徹底シ近日ニ
力下ル旨ト共ニ其間ニ限リ貴講社ヨリ年額鋳業ニ付甲
金ニ千円 乙金九百円也ノ補助ニ要ス旨請願ス事
右補助金下附ニ成ル難キ場合ハ不得止出鋳致ス難クル事
右請願ス也
大正十年十二月九日 鋳所委員 連名 ㊞
法々講社 中

（イ）

ナカガワ

十二月九日 前記願書大森氏ヘ提出ス
十二月九日 去ル九日付諮詢ニ対シ大森氏ヨリ回答ヲ助ケ本市
ヘ対シ補助金下附申請ニ協同シテ力ヲ尽スベク願書ニ連名スル
コトヲ承諾ノ旨ノ返答ヲ受ク
十二月十二日（午後七時） 鋳所ニ法ノ良亮氏ニ於テ第三回委員会ヲ開ク
出席者西茶鋳所 吉川安氏 故下鋳所 法ノ善伊氏
北敷地所 廣田覚氏 船鋳所 法ノ良亮 江上四名
請願書作製ニ付テ種々協議ス 日日新聞社 当伺 氏ヲ
草稿作製方依頼セシニ対シ其ヨリノ補助沿革ヲ詳記シ
テ参考ノ為トテ送ラレタル書ハ鋳所ニ於テ作製セラレタル旨ノ

大義ヲ以テ意見ヲ付委員協議上 文案作製ヲ法学良高氏ニ
委任セラル 同席上左記申合ノ件 函谷鉾所ヨリ提案アリ協議ノ
上原春各所ノ意見ヲ聴取シテ決定ス（本書トシテ厳合ス）

申合契約書（函谷鉾所提案ノ写）

第一条 各鉾所申合趣旨ハ港々講社及当市鉾修繕
費并ニ経費ノ補助ヲ請願シ費徹ヲ期スル事ヲ
目的トス

第二条 第一条ノ目的ヲ達スル迄各所出鉾セザルコトヲ約ス

第三条 第一条ノ目的ヲ達成スル為各鉾所ハ信認金トシ
テ金弐百圓供托シ置クモノトス

十月廿三日

第四条 第一条第三条ノ申合ヲ異約セラル場合ハ第二条ノ
信認金ハ本契約遵守セラル各所ヘ提供シ決シテ
取戻シノ請求ヲナサルモノトス

第五条 第二条ノ信認金ハ三井銀行ヘ預ケ入レ置クモノトス

第六条 第一条ノ目的貫徹ノ上ハ信認金ハ元利共割戻スモ
ノトス

第七条 本契約ノ期間ハ向ヒ五年トシ再契約ヲナスコトヲ得

右契約ヲ確證スル為本證 通ヲ作製シ各鉾所ニテ保
管所持スルモノ也

十月廿三日 本部ニ寄セラル請願書原稿作製費用ヲ東振

川辺各所ニ於テ船岡芸勧助氏ニ依頼ス

十月廿四日 船岡氏前記原稿作製シ持参セラル之ヲ
披見シ訂正ノ箇所ヲ朱書シテ同夜再ビ船岡氏
方ヘ出向シ浄書方依頼ス

十月廿五日 請願書浄書出来セラルヲ以テ各所代表者ヲ歴訪
シ署名捺印ヲ受ク同夜長刀鉾所代表者不在為ニ所ノミヲ
残シ立山所代表者小山氏方ヘ回達ス

十月廿六日 午後一時ヨリ港々良高宅ニ於テ委員会ヲ開ク
出席者 貴田氏 廣田聯合氏 港々良高氏
去ル廿日付各所ヘ通告シ出鉾費用既報書ノ修繕

費用既報書ノ提出ヲ委ケラルル件之ヲ検シ一ノ調書ヲ作製
シ市長宛ノ願書ニ参考書トシテ添付スベク協議ス
作製セル参考書左ノ如シ

大正十二年度出鉾費経常費 但シ鉾三基合計ス
各所平均額

一金三百円 内訳 支出総額

一壱百円 大工方支拂

一弐百円 手伝方支拂

一八拾円 鉄子金具屋人夫

一壱百円 車方支拂

一金七拾五日ノ　雇ヒ方洗方三十枚
一百弐拾四日ノ　左　謝礼　手人分
一弐拾六日　拾分　蝋燭　電燈代
一弐拾参日　六千分　提灯手人足　六百分
一弐拾四日ノ　提灯　張替代
一弐拾六日　千分　揃扇　拵直代
一五拾五日　九千分　雇ヒ方人足　千百代
一弐拾九日ノ　五分　供奉員　接待　酒肴
一弐拾壱日　百六十分　縄　榊　杉代等
一拾八日　夜警　九日ノ謝礼

ナカガワ

一弐拾四日　樟　脳代
一小拾四日　用人　謝礼
一八月　拾分　錆落　掃除　手人
一拾四日　拾分　法螺代
一拾五日ノ　雑　費
以上
修繕ヲ要スル箇所明細書
一長刀鋳所　胴巻　屋根　天水引
一函谷鋳所　真木新調　皮張新調　胴巻
見送　天水引修繕

一弐拾四日　胴巻一部修理
一壱百八拾四日　月鋳　皮張新調
一弐百弐拾四日　鶏　天水引拵修繕
一五拾四日　拾分　屋根一部　手直拵
一五拾六日　拾分　幕　新調
一百五拾四日　放下　天幕　真名修理
一弐百五拾四日ノ　岩戸　朱塗陽新調
一拾四百ノ　赤　多ク
一三百五拾四日ノ　〃　雨覆新調
一八百五拾四日ノ　〃　花　修繕

一鶏鋳所　天水引　天井　屋根　胴巻修繕
一月鋳所　見送　胴巻　屋根　修繕
一放下鋳所　雨覆新調　天水引　見送　胴巻修繕
一岩戸鋳所　鋳車新調　天水引　屋根　手摺修繕
一船鋳所　提灯修繕　水引　朱塗　横　天幕修繕
一北斗山所　岩飾胴巻　見送　横　提灯　将棋
一南斗山所　雨覆　天水引　胴巻　見送
以上
大正十年度ニ於テ各所修繕及新調費
一金拾五圓　函谷　二十一挺

ナカガワ

金百八拾目ヽ　船　ヨモヽ　捧新潟
一ヽ　六百目ヽ　ヽ　兩覆新潟
一ヽ　五拾五目五拾匁　ヽ　旗　新潟
一ヽ　拾九目五拾匁　ヽ　兩覆　新潟
一ヽ　八百目ヽ　ヽ　金幣　天井俊議
一ヽ　四百目ヽ　ヽ　金幣　ヽ
一ヽ　壱千目ヽ　ヽ　土器　俊議
一ヽ　壱百五拾目　ヽ　会議所俊議
一ヽ　六百六拾目　南鑾九拾一部壱　ヽ
一ヽ　八拾六目ヽ　長刀　小俊議

十二月廿七日

右ヽ通ヽ之地

十二月廿七日夕未酉ノ長刀持ノ署名捺印ヲ要ス直ニ清ヲ薄社ハ別書ヲ四社ヘ署名ヲ依頼ス

夜大麦氏ヨリ電信掛リ清ヲ薄社幹事会ヲ於テ強願書ヲ捧ル依頼ヲ受ケ社幹事五名ノ連記副状書ヲ添付ス事ト恐縮セラレタル旨通知アリ年内ニ事ナク明廿八日ニ市役所ヘ提出セザレバナラズ二月ニ入ル

難ヲ事情アリ請ノ書ノ後正等ヲ大鉾摘ヲ之ヲ作

右大麦氏ノ通告ヲ後ヒ別紙書ヲ中ニ入ル事ト決ス

十二月廿八日

十二月廿八日朝未大麦氏及高橋山町四軒氏ヲ歴訪シ

日市長ニ面接シテ陳情スベキ旨通方ヲ依頼シ相成ル結果

日午後大麦氏宅ニ集会シ清ヲ薄社代表者大麦義一氏鉾

町代表者清ヲ長其氏（其川氏四郎氏）山町代表者杉村甚

右長門氏以上ニ名市会議員月岡俊ニ氏ノ御紹介ヨリ市

長ニ面会ヲ左記請願書并ニ清ヲ薄社ハ廿六日作製セル意味ノ

書三通及山町作製ニヨル意味ノ書ヲ通ヲ提出シ名町

ノ衰徴ノ陳情シ請願ス尚日市役所ニ於テハ御用納ノ

日ニテ市長モ多忙ノ折柄特ニ面会ヲ得タルハ月岡氏ノ御

紹介ノ賜ト感謝ス

山鉾ニ関スル補助金下付請願書

歳末匆忙際敢テ書ヲ座右ニ上リ官幣大社八坂神社私祭

山鉾巡行ノ神事ニ供スル山鉾保存并ニ修繕ニ要スル費用ノ

件ニ関シ切ニ閣下ノ採擇ヲ仰カントス

コノ古典的ニシテ優雅ナル祇園會ハ唯ニ氏子ノミナラズ全市民ノ

渇仰スル所又本市繁栄策ノ一トシテ見ルモノノ價値没スベカ

ラズ之ヲ他ノ神社私祭ニ比スルニ大ニ趣ヲ異ニスルアルハ賢明ナル

閣下ノ夙ニ知悉セラルル所ナルベシ

元来山鉾ニ要スル費用ハ織田氏執政ノ時代ヨリ年貢ノ口

米即チ地ノ口米ト稱スルモノヲ以テ之ニ充テ来リシガ其後

元治甲子ノ兵乱ニヨリ山鉾ノ巡行ハ一時中絶ヲ見タリシガ

明治五年之ヲ復旧再興シ其経費ハ各町ノ負担制トナシタリ後氏子ノ發企ニ係ル清々講社ノ設立ヲ見ルニ至リ明治二十年以来同社ハ坂神社ノ私祭執行ノ任ニ膺リシヨリ山鉾ニ對スル補助ヲモ管掌スルニ至レリ

然ルニ之カ保存并ニ修繕ニ要スル費用ハ別トシテ曳出ニ要スル諸経費ニ就キテ考フルモ其額累年嵩ミ来リ最近ニ於テハ鉾九基山拾九基ニ對スル神幸費ノミニテモ壱萬圓以上ニ達シ其外毎年小修繕ニ要スル経費モ亦少カラズ清々講社ヨリノ補助金年額約五千圓ヲ控除スルモ尚費額甚大ナリ現在ノ山鉾ハ天保年間

ニ大修繕ヲ施シ其後小修繕ヲ加ヘツヽ現今ニ至リシモノニシテ爾来約百年ノ星霜ヲ閲シ破損箇所頗ル多ク近々大修繕ヲ加ヘザルベカラザル状態ニアリ然ルニ毎年巡行ニ要スル費用ザヘ其支辨ニ苦ミツヽアル現状ニ徴シ此上尚修繕ニ要スル費用ヲモ氏子ノ負担ニ属ス

シハ実難ノ事ニシテ延テハ将来該神幸斎止ノ止ムナキニ至ルヤモ計リ知ルベカラズ宵々山無双ノ盛観タル此古典ノ亡ビン後ノ本市夏季ノ寂寞ニ想到セハ転タ感慨堪ヘザルモノアラン況ンヤ本市ノ繁栄ニ古美術ノ保存ニ多大ノ貢献アルニ於テヲヤ

冀クハ閣下ノ裁量ニヨリ保存并ニ修繕ノ費トシテ大正十二年度ヨリ鉾九基ニ對シ毎年金四阡五百圓山拾九基ニ對シテ金参阡四拾圓合計金七阡五百四拾圓ノ市費補助セラレンコトヲ願ヒ該補助金使途参考書最近経費計算書ヲ添付シ山鉾町代表者連署ヲ以テ伏シテ懇願ニ堪ヘザル所ナリ

大正十一年十二月廿八日

京都市長馬渕鋭太郎殿

大正十二年一月十二日

大正十二年一月十二日付西谷鉾町提案ノ申合契約書条項ヲ明記シテ各鉾町賛否ヲ照会ス追テ廿日迄ニ回答ヲ乞フ

一月十六日

添書ス

一月十六日、本日市参事会ニ市長ヨリ十二年度予算提出セラレタル中ニ日々請願ニ係ル鉾ニ関スル補助金漏洩マレタル旨月行候ニ氏ヨリ通告ヲ受ケ今後ノ運動方法併テ指示ヲ受ク

一月十七日

一月十七日、右ノ趣各鉾町ニ通告スルト共ニ左記市参事会員ニ知ラシタ有セラルヽ向ニ此際市参事会ニ於テ該補助金可決通過スベキ様御配慮ヲ請セラレ度キ様回文ヲ以テ依頼ス

市参事会員中山鉾ニ直接関係アル川村元三郎氏
寺村助右衛門氏　月行候三氏　以上ニ名ヲ除ク左記七氏
高山與三吉氏　八木伊三郎氏　山下穂三郎氏

久保長次郎氏　大島健之輔氏　芦村德三郎氏

儀ニ付氏　以上

右之件、日日山新代表者迄改天神山町小出氏通告ス

一月廿日左記之件ニ付茅二回絵合ヲ鉄町清水良亮宅ニ誘ヲ開ノ出席者　長刀　大賀氏、函谷吉川氏　月　土田氏

鶏　河添氏、故下　清水氏、岩戸　北澤氏　北觀音　廣田氏

南觀音　林井氏、船　清水　以上九名

要件、一申合契約書　賛否聴取之件

二、市会議員人会員懇請件　豫テ書面ヲ以テ通告セシ

ト雖モ尚徹底ヲ期スベキ為協議ス

三、昨年七月九日茅ノ經過報告之件

右ハ一ノ件ニ付テ請願ヲ徹底スベク各町協同一致ヲ旨トスル

上ニ於テ各町賛成アリ故ニ各条項ニ付協議ヲ進ム

ハ条異議ナシ　ハ二条鉄町ヨリ不穏當ノ点アリ修正ヲ求ム

各町種々意見出シ結局「但シ清々講社及當市ヨリ回答

ニヨリ協議会ヲ開ク事ヲ得」ト但書ヲ附ル事ト決定ス

ヲ三条　長刀鉄町月鉄町ヨリ修正説出デ議果信認金ヲ金

壱百圓ニ減額ス　茅四条異議ナシ　茅五条北觀音山町ノ

意見ニヨリ（保管及義人ヲ定メヨト意見）各町協議ノ結果

吉川佳也　清水良亮ノ両氏ヲ鉄町会代表者ト選定スル事ト

決定シ「原案中信認金ハ次ヘ「鉄町会代表者清水良亮吉川

忠七名儀ヲ以テ」ノ十九字加入スル事トス　ハ六条異議ナシ

茅七条北觀音山町ヨリ契約期間壱年ニ修正説出ラレシモ原

案通ニテ壱年ト決定伝ヲ以上修正ニテ読契約書九通作製之上

各町代表者ヲ調印ヲナシ併ヲ信認金徴出スベク約シ散会ス

午後一時集合之五時ニテ散会ス

一月廿四日　契約申合書吉川氏ニテ印刷（謄写版ニテ）方依頼

シ左ノ所業上ヲ持参ス（吉川氏ハ調印ヲ上ニテ持参セラル）

一月廿九日　申合契約書調印ヲ求ムベク長刀鉄町相賀氏ヘ

読証九通持参ス　便宜上鶏、月、故下、南觀音、北觀音

岩戸、順ニ右証書回達セラルヽ様書添付セリ

一月廿日　夜岩戸山町ヨリ契約申合書九通調印ヲ了シ持参セラル依テ鉄町ノ調印ヲ了シ翌

一月廿一日　長刀鉄町未調印ニ付各町相賀氏、田付ス

二月二日　長刀鉄町お賀氏（出向）且お賀氏ト同道ニテ

各町園井氏ニ面接シ諒解ヲ受ク

二月四日　長刀鉄町お賀氏契約書ニ調印ヲ了シ信認

金壱百圓ヲ添ヘテ御提出ス　則チ各町ノ調印完成ス

故ニ之ヲ通ヲお賀氏ヘ送付シ信認金受領ス

二月五日　證書ヲ各町ニ配布シ併テ信認金ヲ集収ス

北観音山南観音山、放下鉾ノ三町収受ス

二月六日　鶏鉾、月鉾、岩戸山ノ三町信認金収受ス

二月七日　二月七日午前市川忠七氏及法水良亮同道ニテ九町ノ信認金ヲ三井銀行ニ預金ス、六ヶ月定期預金トシ金額六金九百圓也利息年六分之割、満期大正三年八月七日證書番号第一乙亥第弐拾四番名義人鉾町會代表者吉川忠七、法水良亮連名トス

二月十三日　二月七日市役所庶務課長ヨリ大森我一氏ヘ電話掛リ明十四日市参事会ニ議附会ニ際シ各山鉾町ノ修繕費額明細書ヲ電スルニ付今日中ニ提出スベキ旨ノ通達アリタル由同氏ヨリ更ニ移謀アリ時ニ午後六時過キナリシ為早速庶務課長小西氏宅ヘ電話ヲ以テ提出期限ノ明十四日午前迄延期セラレタキ様通告シ同時ニ各鉾町ヘ回文ヲ以テ前記ノ趣通報シ明細書作製方依頼ス尚油小路天神山町小山氏ヘ電話ヲ以テ同様通告ヲナシ山町ノ分ハ小山氏ニ於テ取纏メノ依頼ス

二月十四日　二月十四日早朝ヨリ各鉾町ノ見積書ヲ取纏メ奔走シ漸ノ十時全部揃ヒタレバ別紙小山氏ヨリ提出セラレタル山町十九ヶ町ノ分ト併テ市役所ヘ持参シ庶務課長ニ面接シ該書類ヲ差出シ審査ニ應答シ十二時退出帰宅ス

因ニ各町見積書内容左如シ山町ノ分ハ有図参ス

長刀鉾町見積総額弐万四千円也

一、南蛮胴巻　瑞　一、胴巻上部　四枚
一、天水引　四枚　一、天井覆　一枚
一、屋根廻破風修繕

函谷鉾町修繕見積総額七千九百七拾円也

内訳
四百九拾円也　真木新調
壱百六拾円也　引綱新調
五拾円也　小綱新調
弐拾円也　胴巻修繕

弐千円ヨリ　前見送修繕
弐千五百円ヨリ　見送修繕
八百円ヨリ　天水引修繕

鶏鉾町見積総額金五千百八拾五円也

内訳
金千七百円ヨリ　金部四枚新調
ヨリ五百五拾円　天井覆壱枚新調
ヨリ弐百八拾円　四隅房掛修繕
ヨリ百八拾円　綴蓋鉦ヨリ八本新調
ヨリ六百七拾五円　伴天五十枚新調
ヨリ参百五拾円　庫ヨリ階ハ掛樽修繕

金千弐百両也　天水引胴巻修繕
一〃　弐百五拾両　見送り修繕
月鉾町見積総額五千百両也
内訳　一金　参千両也　胴巻　四枚修繕
一〃　千六百両也　車輪枝　〃
一〃　五百両也　屋根　〃
故下鉾町見積総額五千百両也
一金　弐阡両也　屋根廻り修繕
一〃　六百両也　雨覆　新調
一〃　壱千両也　胴巻　修繕

一〃　五百両也　胴巻引〃
一〃　壱千両也　見送　〃
岩戸山町見積総額金四千九百五拾両也
内訳　一金　参阡両也　車輪　新調
一〃　壱阡両也　屋根　修繕
一〃　四百五拾両　天水引〃
一〃　五百両也　歩廊〃
船鉾町見積総額金五千八拾五両也
一金　千弐百両　本飾天幕枝新調
一〃　九百　両　常飾天幕　新調

一金　五百両也　朱高欄漆替金具直し
一〃　壱千両也　常飾水引大修繕
一〃　八百両也　埒囲　大修繕
一〃　六百両也　本飾水引　修繕
一〃　八拾五両也　人形殿戸帳新調
北観音山町総額金五千四百五拾両也
内訳　一金　壱阡五百両也　欄縁金具修繕
一〃　壱阡両也　常飾水引新調
一〃　壱阡五百両ヽ　ヽ　胴巻新調
一〃　弐百両也　埒囲　修繕

一〃　八百両也　見送　〃
一〃　四百五拾両也　併天三枝新調
南観音山町総額五千参百両也
内訳　一金　八百両也　雨覆　新調
一〃　弐千両也　見送　修繕
一〃　千　両也　胴巻　〃
一〃　千五百両ヽ　天水引〃
以上

二月廿三日

二月廿三日市参事会ニ於テ久保長源助氏壱人ヽヽ反對ニテ九対一ニテ多数ヲ以テ原案可決

三月二日

三月二日山鉾町聯合會開催ニ付昨日八坂神社ヲ務所借入ヲ交渉シ三日午後二時ヨリ開會スル事ニ取極メ其旨各鉾町及上下山町當番ニ通知ヲ發ス

三月三日

三月三日午後二時ヨリ港ニ館ニ於テ山鉾町聯合集會ヲ開ク出席者廿六名（欠席三名南蛮船町右ハ所用ニ付略ス）港ヲ溝社代表トシテ大会長以上廿七名今後ノ実行方法ヲ付協議ス即チ出席者等ヲ各山鉾町住民中ニ市会議員ト称セラレタル者ハ知ル限リ訪問シテ領解ヲ委ヌベク交渉スル事ト右決定ヲ見ル後議論百出シ前決定ヲ取消サレントセシガ白米天町ノ發議ニ依リ又前決定ノ通極力為ス力ヲ尽ス事トナリ又議論ノ焦点ハ港ヲ溝社ト山鉾町

（イ）

ナカガワ

間ニ意志疏通ヲ欠ケル点ニ感情ノ行違ヒ

尚市会事会員ハ名ニ対シ過日来市会事会ノ労ヲ謝シ併ヲ今後尽力ヲ乞フ為左記挨拶状ヲ送付スル事ト協議ス

拝啓春寒猶去難ノ砌弥御清祥御奉賀之ヲ

陳者過般十三年度予算御審議際ニ祇園会山鉾補助金ノ件参事会ニ於テ原案可決ノ処ノ事ハ全ク

祇園会山鉾ニ対スル貴下ノ深キ御理解ト厚キ御配慮ノ賜ニシテ感謝ヲ猶ホ其ニ御尽力相仰ク度ク略儀ニ書中御挨拶迄ニ新御礼ト敬具

大正十三年三月四日　山鉾町一同

三月四日

右挨拶状ヲ関係ノ方々ニ送付シ三月四日発送ス

三月四日祇園山町出民ヨリ田畑庄吉氏野間恵義氏ヲ訪問セラレタル者通告ス

三月五日

三月五日朝前田氏ヨリ以書面町員諸氏協力シテ左記訪問セラレタル者通告ス

一　平井雄七氏　百木伊之助氏
伊藤治郎氏　伊藤平氏　大久保作次郎氏　苗加房三郎氏
石原春四郎氏　川上清氏

是ヨリ先キ昨四日上下山當番町及鉾町ヘ市会議員名簿ヲ配付ス但シ個人宅ニ出張者ト名称書ヲ付セシモ紙数不足為ニ止ムヲ得ズ

（イ）

ナカガワ

三月六日

配付ヲ

三月六日岩戸山町伊藤氏ヨリ田中新七氏訪問スベキ件同道スル様ト申越サレタルニ付其旨ヘ出向ク不在ナリシ為ニ再ビ詳述シ午ノ刻ヨリ田辺正記小篠長兵衛両氏訪問ス

談セラレタル旨通報ニ接ス本町塚本氏ヨリ田特議員訪問セラレタル旨通知ヲ

同日市會ニ於テ十三年度予算原案左記委員ヲ委託ス

田辺正記　中村治三郎　友田金三郎　大久保作次郎　遊津喜太郎
野間恵義　横井永太郎　川人忠平　田中謙　竹田喜松作
川村吉郎　鈴木政吉　佐藤吉助　田中新七　田畑信蔵

三月六日岩戸山伊藤氏ヨリ　長田茂氏　川村吉郎氏訪問セシモ

両氏トモ不参ノ旨報告ニ接ス

三月七日　三月七日豫算委員名報告ニ接シ同委員ヘ交渉方依托

各鉾町ヘ以回章通告ス

三月十二日　三月十二日左記委員及議員訪問ス　坂部義氏　稲葉清氏

友野登氏　西尾林太郎氏　中村作右氏　但シ坂部稲両

氏不在ニテ面談スルヿヲ得ズ

三月十三日　三月十三日左記委員訪問ス　橋本永太郎氏　田中藤氏

作田為作氏　但シ何レモ不在面談スルヿヲ得ズ

三月十四日　三月十四日委員会経過報告ニカヽル依ヲ各委員訪問方ヲ

各山鉾町ヘ尽力方依托書ヲ発ス

三月十七日　三月十七日昨廿六日委員会ニ於テ満場一致可決セル旨各町ヘ

通知ス

三月廿日　三月廿日市会ニ於テ豫算委員長報告通リ大多数ヲ以テ原

案可決ス

三月廿一日　廿一日山鉾会御衆者松村甚太郎氏岩佐仙吉氏代表者作田増蔵氏

御来訪ヲ受ケ補助金下付確定ニ付テ御挨拶ヲ受ク

四月二日　四月二日市会議員五拾弐名ヘ左記同文ノ挨拶状ヲ発送ス

拝啓時下春和之候益々御清祥之段奉大賀候陳者過

般大正十二年度豫算案御審議ニ際シ祇園會山鉾維

持費補助件市會ニ於テ可決相成候事ハ全ク祇園會

山鉾ニ対スル貴下ノ深キ御理解ト厚キ御配慮ノ賜物

ト奉感謝候就テハ早速参趨御礼可申述筈之處

乍略儀以書中御挨拶迄如斯御座候　敬具

大正十二年四月一日　祇園會山鉾町一同

四月三日　尚市長宛別文挨拶状ヲ発ス

四月三日大森義一殿宛挨拶状ヲ発送ス法ニ講社各幹

事ヘ宜敷御傳言ヲ托ス

四月四日　四月四日午後七時ヨリ法務室ニ於テ委員会ヲ開クヿ出席者長

刀鉾町大野氏函谷鉾町野村氏放下鉾町法務氏北観音山

町斉田氏法務以上五名協議事項左如シ

一、市ヨリ補助金下付確定セルニ付本年一月廿日決議セル申

合ニ就テ出鉾スルヤ否ヤ

市会金中ヨリ補助ヲ受クル事ニ付本年ハ大体ニ於テ出鉾スベ

キ事ヲ是認スルヿトシ申合ヲ一条ニ付更ニ法務室ニ渉

シテ増額要求ヲナス事　要求額ハ市長宛申請書初

金五百圓ヲ参百圓ニ削減セラレタル不足額金弐百圓トス

一、山會長松村甚右衛門氏ヨリ御申出ニ係ル山鉾聯合会ヲ

毎年一回催シテ各鉾町ニ意志ノ疏通ヲ計ル事ニ付テ

右ハ各委員賛成毎年一回開催スル事ト決ス開催ノ時期ハ

祭禮前ヲ適当トスル故六月中旬若シクハ廿日頃トスル事

一本年神事祭礼當日（七月十七日）市長庶務課長市會議員諸氏ヲ招待シ山鉾巡行ヲ供覧スル事

右休憩所ニ充ツル為四条通高倉以東御馬場以西北側ニ適當ナル箇所ヲ選定シ交渉スル事若シ借入出来難キ時ハ長刀鉾町々會議所借用ノ事トス

一本請願運動ニ要スル経費ノ負担法之件

総費ノ半額ヲ鉾町九ケ町ニ負担シ半額ヲ山町十九ケ町ニ於テ負担セシムル事尚一山町ヨリ異議アル場合ハ補助金額ニ按分比例シテ割当ル事トス

協議前ニ本日迄ノ経過報告及市長市会議員法人講社ヘ

四月五日

四月五日前日決議事項ヲ通告ノ為西京山町田中氏ヘ出向シ山町会ノ協賛セラレン事ヲ乞フ

四月十二日

四月十八日山會長松村甚右衛門氏ヨリ電話横ヨリ鉾町会ノ決議事項ニ付テハ山町会ハ異議ナキ事ヲ回答セラル

但シ法人講社ニ対スル増額ハ口頭ヲ以テ申請スルヲ可トスト云フ追テ日ヲ期シ山鉾町同道シテ法人講社幹事ニ陳情スルヲ諾ス

四月廿一日

四月廿一日山會長松村氏ヨリ明日（廿二日）法人講社幹事会アリ各幹事集合セラル機會ヲ以テ山鉾町ヨリ陳情スルヲトニテ

挨拶状発送セシ事ヲ報告ス午後九時散会

五月一日

如何ト事ニ付各委員町ヘ出席方ヲ通告セルモ各位不在又ハ差支ノ為明日ノ參會致難ク依テ吹育松村氏ヘ回答ス

五月一日法人講社幹事毎月一日社務所ヘ集合セラル由仄聞ス仍テ四月廿九日社務所問合セ集合セラル事ヲ確ク

山会長松村氏鉾委員町ノ内函谷鉾町吉川氏北觀音山町高田氏ヘ五月一日出席セラル様通知ヲ発ス）同日午後二時八坂神社々務所ヘ集合ス出席者鉾町側吉川氏廣田氏清水山町側松村氏油天神山町村井氏八幡山町藤本氏以上六名法人講社幹事寺村氏中林氏菊岡氏以上三氏ニ面談シ各町事情ノ詳述シ増額ヲ申請ス追テ何ノ回

五月十四日

答セラル事トナリ散会ス

五月十四日法人講社幹事ヨリ去ル一日申請増額之件ニ関シ本年度豫算決定後ニ付之ガ途ナシ故本年ハ前年通リノ補助ヲ以テ挙行シ私案終テ後社長会ニ於テ協議スベキ様可致旨回答ニ接ス

五月廿日市役所庶務課ヨリ補助金之件ニ付談合被致出頭スベキ様ト通告ニ接シ午前十時山鉾町ヲ代表シ庶務課ニ出頭シ左課長小西籍次郎氏ト面談ス要件左ノ如シ

五月廿日

本年度豫算審議ニ當リ山鉾ニ対スル補助金可決セル故ニ各
山鉾町ニ於テ今大正十二年度ニ修繕又新調ヲ要スル見積書
ヲ提出スベキ様ト事
右見積金高ハ各町毎ニ金高相違スベキモ各町毎ニ見積
書ヲ提出セス各町連帯ノ見積書ヲ提出スル事
猶会計年度大正十三年三月後二月以内ニ実支出計算書
ヲ各町連帯ニテ提出スベキ事
右三項ニ付テ提出方ヲ余セラルタリ見積書提出ノ上ハ豫
算ニ於テ決定セル下附金ヲ山鉾町聯合会ヘ交附セラルヽ由
仝日午後右庶務課長面談ノ用件ヲ携ヘ山町会長

六月五日

松村長右市民氏ヲ訪ヒ詳細通告ニ賈ノ山町ニ於ケル見
積ハ仝氏ノ手ニ依リ纏メラレ度申出ノ山鉾町ニ対シテハ
六月上旬鉾町会開催ノ豫定ニ付其席上ニ通達スルヿトス
六月五日第三回総会ヲ清水宅ニ於テ開キ左記協議ヲ為ス
一、清社（増額補助金）之件
従来ノ交渉ノ有様ヲ報告シ本年ハ昨年通リニテ金鉾ニ祭礼
終了後改メテ増額ヲ申請スル事
一、申合契約（本年一月廿日協定）ノ二条出鉾ニ之件
本年ハ本年ニ當市ヨリ補助金下附確定セル故申合セ出鉾
スル事ト協定ス

因ニ保管スル所ノ信託金ハ三井銀行定期預金満期ニ
元利割戻シ同時ニ申合契約書ヲ破棄スル事
一、鉾町会設立ノ件
各町異議ナク毎年一回総会ヲ催スヿ必要ト感シ臨時
総会ヲ開ク定期総会ハ毎年六月中旬ニ開クヿト定メ
各鉾町ハ会費トシテ金六圓毎年六月一日出金スルヿ、
斡事ハ當番町ヲシテ之ニ充テ毎年交迭スル事
会費不足額ハ出席者ニ割當テ徴スルヿ
欠席者ニハ会費伸戻シ又ハ料理折詰等ノ贈呈ヲ
ナサヾル事ト協定ス

鉾町会総会ノ前ハ八坂神社ニ参拝ヲナシ神事必要事
項ニ付各町意見ヲ述ベ協定スル事
未ダ六月十五日中村楼ニ於テ初會ヲ開ク
便宜上山鉾聯合会ヲ開ク事ヲ得ル事
初會ニ限リ過般未ダ力セラレタル船鉾町見学後ニ氏
ヲ招待スル事
一、祭礼當日市会議員ヲ招待シ山鉾巡行ヲ供覧セシム件
種々議論続出シ決定ヲ見ズ未ダ十五日ノ総会迄保
留宿題トス
一、去ル廿日（五月）庶務課長ノ通告ニヨリ本年度各町新調

又ハ修繕ニ要スル費額見積之件、

来ル十五日総会席上ニ提出（見積書ヲ）スル事トス

以上午後五時散会出席者　長刀鉾町（松繁氏）函谷鉾町（吉川氏）鶏鉾町（山添氏）月鉾町（橋本氏）放下鉾町（清水氏）出在家町（井内氏）北観音山町（廣田氏）南観音山町（桝井氏）舟鉾町（清水）以上九名

六月十二日

六月十五日

六月十二日来ル十五日総会兼鉾町会祭会開催ノ件ヲ

六月十五日午后三時ヨリ中村楼集合ス四時八坂神社ヘ参拝奉告ヲ兼テ祈禱祭ヲ修シ再ビ中村楼ニ戻リ総会ヲ開ク鉾町代表者ヨリ良案山町代表松村甚右衛門氏挨拶アリ山鉾町聯合会

（イ）

ナカガワ

設ケ趣旨ヲ述ベ協議ニ移リ豫テ懸案ニ係ル祭礼當日市会議員招待之件ハ當日休憩所借入（接待方）（各町共祭礼當日多忙ノ為メ接待ニ当ル人員難）困難ノ故ヲ以テ否決トナリ之ニ代ルニ十五、十六日（後祭礼ヨリテハ十二、三、四日）ニ限リ別ニ一定ノ拝観券ヲ発行シ市会議員諸氏ヘ発送スルヿト決定ス因ニ参観者ニ対スル待遇ニ付テハ各町照一定シ置クヲ可トスル故協議ノ結果別段ノ設備ヲナズ単簡ナル茶菓ヲ呈スルヿト協定ス

一、毎年開ク総会ハ十五日ハ多少遅キトノ意見アリ協議ノ結果明年度ヨリ六月五日開催スルヿト決定ス

一、左記鉾町会申合規約ヲ協定ス

第一条　本会ヲ祇園會鉾町會ト称シ各鉾町代表者ヲ以テ組織ス

第二条　本會ハ各鉾町協力シ八坂神社祭事ニ資シ併テ交互ノ親睦ヲ謀ルヲ以テ目的トス

第三条　本會ノ事務ヲ處理スルタメ幹事若干名ヲ置ク

但シ幹事ハ當番町代表者ヲ以テ之ニ充テ當番順ニ依リ一ヶ年毎ニ交代スルモノトス

第四条　総會ハ毎年六月五日ニ開ク

但シ必要ニ應ジ臨時総會又ハ山町会ト聯合シテ聯合総会ヲ開催スル事ヲ得

（イ）

ナカガワ

第五条　各鉾町ハ會費トシテ金六圓ヲ毎年六月一日醵出スルモノトス

但シ右會費ハ定期総会ノ費用ニ充ツ當シ經費ノ不足ヲ生ジタル時ハ出席員ニ割當テ追徴ス

総会ニ欠席者アルモ會費ハ返戻シナサズ

第六条　総会ノ決議ハ出席員ノ多数決ニヨル

但シ欠席員ハ異議ヲ唱フルヿヲ得ズ

以上

大正十二年六月十五日　當番町順

鶏鉾代表者

（下）

函谷鉾町代表者 吉川忠七
長刀鉾町代表者 お多賀彦次郎
岩戸山町代表者 竹内増蔵
船鉾町代表者 清水良亮
月鉾町代表者 橋本彦太郎
北観音山町代表者 廣田聰介
南観音山町代表者 桝井増吉
放下鉾町代表者 清水栄次郎
當日出席者 未員 月行俊之氏 鉾町長刀 國井氏 函
吉川氏 月 橋本氏 放下鉾 岩竹内氏 北観 廣田氏

六月廿八日

南観 桝井氏 放下鉾 清水氏 函 河添氏 二人
以上於吉名山町側、會長松村甚右衛氏外拾九名
午後九時散會ス（費用明細ハ後記）

六月廿六日 補助金之件ニ付庶務課長小西鉾次郎氏ニ面談ス要スル為市役所ヘ出頭セシニ課長ニ参事會ニ列席中ノ故ヲ以テ面談ヲ得ズ依テ庶務課在勤吏員ニ要旨ヲ話シ課長ヘ傳達方依頼シ退廳ス
要件ハ去月庶務課長ト面談ノ節申シ渡サレタル本年度修繕費豫算書提出ノ件ニ付テ本年度ニ於テ修繕ヲ要スル町ト修繕ヲ要スルモ未着手ノ町トアリ之ガ豫算ヲ作製シ提出ス

七月一日

ルニ於テハ表面上各町ニ平等ニ補助金ヲ配額スル事ヲ得サル事トナリ將来ノ補助金支途ニ就テ禁害ヲ生スル事アルヲ以テ何等カノ条件ヲ附セラルヽトモ各町ニ均一ノ補助金ノ下附セラルヽ様ニシ且該補助金ハ受領年度内ニ於テ必ズシモ支出虚分スルヲ要セズ数年積立置キ必要ノ際之ヲ支出ヲ得ル様各町ノ事情ヨリ適宜ナルベキ様ニセシメラレ度ノ交渉之件及ビ神事ニ目睫ノ間ニ迫リタルヲ以テ可及案枝前ニ補助金ノ交附セラレタキ旨請願シ置キタリ八月ニ課長ヨリ同意ナルカ如キ吏員ノ話アリ

七月一日 船鉾町ヨリ市會議員招待ノ件ニ付テ各鉾町ニ於テハ

十五六（又ハ廿二三）両日ハ非常ニ混雑ヲ来シ待遇不行届ノ点アリ且費用ノ点ニ於テモ各町ニ於テ茶菓ヲ呈スル事ハ却テ費用多額ヲ要スルニ付四条通大丸呉服店又ハ他ニ適當ノ個所ヲ借入レ山鉾巡行ヲ俯覧スル様取計ハレタシトノ希望ヲ以テ委力方依嘱セラル

七月二日 七月二日前記ノ大丸呉服店借入ノ件ニ付大丸在勤ノ大槻氏ハ生ノ知己）ヲ私宅ニ訪ヒ懇談ス

七月三日 七月三日大丸呉服店支配人訪問スルニ当リ當番町代表者トシテ鶏鉾町 ㊁ 御店ト同道訪問ノ上交渉致シ度旨當番町河添氏ヨリ書面通告ス

七月六日

七月六日朝鶏鉾町河添氏ヲ訪問シ去ル二日書面ヲ以テ通知ナシ置キタル㊞御店ト同道大丸呉服店ニ交渉時間ノ打合ヲナス

七月七日

七月七日午後重ネテ河添氏ヲ訪問セシ所㊞御店単独ニテ大丸呉服店ト交渉セラレタル結果借入不調ノ旨業ニ付テノ手遠ト及不結果ヲ遺憾ニ思フ

今日午前市役所庶務課ヨリ電話掛リ午後早々出頭方通告アリ依テ午後一時出頭課長ト懇談ス

補助金交付ニ當リ左記条件ヲ附ス旨提示セラル

山鉾補助金交附条件

一補助金ハ其ノ町ニ於テ管理セル鉾（又ハ山）修繕ニ充ツル外

他費途ニ支出スルコトヲ得ズ

二、補助金ヲ支出セントスルトキハ其費途ノ明細書ヲ提出シ予メ市長承認ヲ受クルコトヲ要ス

三、補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ其管理方法ヲ定メ豫メ市長ノ承認ヲ經ヘシ

補助金ヨリ生ズル利子ハ之ヲ元本ニ繰入レ蓄積スベシ

四、鉾（又ハ山）ノ修繕ヲ為シタルトキハ其ノ旨市長ニ申出之カ検査ヲ受クルコトヲ要ス

五、交付ヲ受ケタル補助金ノ収支ハ之ヲ帳簿ニ記載シ毎年十二月末日現在ヲ翌月十日迄ニ市長ニ報告スベシ

六、市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ吏員ヲ派遣シ會計検査ヲ為サシムルコトアルベシ

七、補助金ノ交付ヲ受ケタル者本条件ニ違反シタルトキハ市長ハ補助金ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

八、鉾（又ハ山）町代表者ニ異動アリタルトキハ其前任者及後任者連署ノ上直チニ市長ニ届出ツベシ

以上

右ハ七月九日京都市指令ヲ以テ条件ヲ各町ニ通告スルヲ以テ指令収受上ハ左記書式ニ倣ヒ請書ヲ各町別ニ提出スルヲ

請書様書式

山鉾町補助金交付条件

一、（前掲条件一ヨリ八マデ本文ノ通リ轉載スルヲ）

大正十二年七月　日付京都市指令第　号ヲ以テ右条件ノ下ニ鉾補助金参百圓（山補助金壱百圓）御交付相成候ニ就テハ其条件確ク遵守致スベク御請ス也

大正十二年　月　日

鉾（又ハ山）町代表者　氏　名　㊞

京都市長馬渕鋭太郎殿

尚補助金交付請求ノ為メ左記書式ハ請求書ヲ提出スルヲ

請求書々式

一金参百圓也（山ニアリテハ壱百圓）

但シ京都市指令業　帰ニ対スル補助金

右御下付相成度請求業也

大正　年　月　日

鉾（又ハ山）町代表者　氏　名　㊞

京都市長馬渕鋭太郎殿

尚補助金受領ニ當リテハ左記様式領収書ヲ提出スヿ

領収書々式

一金参百圓也（山ニアリテハ金壱百圓）

但シ京都市指令業　帰ニ對スル補助金

右御下付相成リ正ニ領収受也

大正　年　月　日

鉾（又ハ山）町代表者　氏　名　㊞

京都市収入役五島藤一殿

追テ請求書及領収書ニ用フル印鑑ハ必ズ同一ノモノタルヿ

当方ノ希望トシテハ未ル十三日圖取ノ日ニ補助金下付相成ル様急速御取計ヒ方ヲ依頼ス課長之ヲ諾シ指令ハ業ニ上出ハ通一瀧イトシテ七万（小生ノヿ）ヲ持参スルニ付各町ハ酢付ヒ方依嘱セラルヽヲ領業シ退廳ス

帰路當番町鶏鉾町ハ上ヲ報告シ後ヲ左記各町ヲ歴訪

七月八日

シ来ル十日午前中ニ請書、請求書ヲ作製シ拙宅迄提出セラレタキ旨ヲ通告ス

放下鉾町　南観音山町　北観音山町　山蟷番　八幡山町　山蟷番　油天神山町

七月八日左記各町前日ノ事項通告ノ爲歴訪ス

岩戸山町　山蟷番　油天神山町（昨日不在ノ爲重テ訪問ス又々不在）後チニ面談ス

之日午後大丸呉服店大橋好造氏ニ面接シ重テ之氏ハ紹介ヨリ事務部長ニ願意傳ヘタルモ之店トシテハ大阪神戸店ヨリノ申込モアリ寄ニ別段ノ席ヲ設ケテ貸ス事ハ不可能ニシテ且茶菓ヲ呈スル等ノ待遇ヲセラルヽ事ハ他ノ客人ニ対スル待遇上差別ヲ生ジ思シテ唯小数観覧券（之店発行ノモノ）ナラバ都合シテ分譲スベシ

クッソレトテモ一般観客ト同一席ニ於テ同一待遇ヲスル事ト条件ニ付然ルトキハ山鉾町招待ノ主旨ニアラズ却テ被招待者ノ不快感ヲ招ク事トモナレバ同店借入之件ハ不得止見合ス事トス

夫レヨリ藤井大丸ヘ交渉セシモ同店モ毎年空マリタル由ニ観覧者アリテ多人数ノ観覧席ヲ儲ケ四五名位ナレバ都合付ケル旨ノ回答ニ付是レ又不得止事ニ付先月聯合会席上ニ於テ決定セル各町毎ニ観覧券ノ斡行ヲ各町ヘ招待スル事トナスノ外他ニ適当ノ方策ナシ

七月九日

七月九日午前孝町大雲院門前借入方交渉セシモ同寺院ニ於テハ毎年檀信徒観覧席トシテ供給シ餘席之ニ有故ヲ

以テ拒絶セラル

仝日午前出役所ヘ電話ヲ以テ指令書至急交付方請求ニ係テ左記件照會ス

下付条件中(二)ハ明細書提出ヌレバ直チニ承認セラルヤ又承認書ノ交付ヲセラルヤ(可及的早ク承認書ノ交付スルトノ)

(三)管理方法ハ可成的各町一定ノ方法ヲ講ジ度ク件補助金受領後方法協議之上承認ヲ求ムルヿトシテハ如何(市長課長及主任不在ニ付後刻返事スト)

(四)修繕後検査直チニアセラルヤ検査遅延ノ為庫ヘ収藏シ難ク為ニ長ク放置シ置ク如キハ困難ニ付如何(通告後可及的速カニ取計ヒ何分ノ沙汰スル事トスル旨返答アリ)

指令ニ対スル請書、請求書、領収書等ニ用フル用紙ハ何等規定ナキヤ(何レニテモ任意トノ)

領収書ニ収入印紙ノ貼付ヲ要スルヤ否ヤ(不要トノ)

仝日午後庶務課ヨリ電話掛リ本日指令届ケル故各町ヘ配付スベキ事ヲ申サレ午前照會ノ条件中(三)ニ対ス管理方法ハ請書ト同時ニ提出セラレタルトノ依テ當方ニ希望トシテハ補助金受領後各町協議会ヲ開キ申告ニテ可旨申ル七月下市長及課長東上不在中ニ付右様取計ヒテ後日叱責ヲ受クルヿヨリハ困却スル故單ニ形式的管理

方法ノ申告ヲナスベキ様トノ回答アリ尚下付金ハ来ル十三日交付セラルヿ様希望ヲ述ベシ(来ル十一日迄ニ請求書ト他ノ書類提出セバ其取計ヒナスベキ旨返答(後ニ再ビ電話ヲ以テ)アリタリ

仝日午後四時左記仝文指令ニ交付条件及仝請書様式ヲ添ヘテ八通市役所ヨリ到達ス依テ外ニ請求書、保管届書、領収書様式ヲ添ヘ明十日午前中ニ指定造書集取揃ヘ提出セラルヘ様回文ヲ添ヘ各町ヘ配付ス因ニ山町分ハ當番町ヨリ藤本万助氏村井信次郎氏持参ニ配分方依頼ス

京都市指令庶第二一四二号

船鉾町代表者

清水良亮

大正十一年十二月三十一日附願鉾修繕費中ヘ左記條件ヲ附シ金参百圓ヲ補助ス

大正十二年七月九日

京都市長　馬渕鋭太郎　印

但シ交付条件及請書ノ式ハ前記載ノ通リニ付照会ス

右指令厳到達前ニ月鉾町西谷鉾町ヲ訪ヒ去ル七日庶務課ヘ出頭セシ際件ノ報告ヲナス長刀鉾町ヘモ報告スベキ筈ノ處指令配付相変ケタル故之カ配分ヲ急ク為仝町ノ訪

七月十日

問ヲ見合ニ帰宅指令ノ配分ニカヽル迄ニ後刻指令配分ノ際書面ヲ以テ詳報ス以上配分ヲ了シタル時ニ午後八時十分

午前中ニ南山町中三ケ町分鉾町（長刀、函谷、月、放下、観音山両町分船）七ケ町分書類纏リタレ共他未調ニ付午後之ガ取纏メ午後三時三十分市役所（出頭三十八ケ町分）書類提出ス書類ハ請書、請求書、外ニ左記同文ノ届書ノ三通ヲ提出セリ但シ函谷鉾町ハ支途明細書ヲ提出セラレタレバ届書ナシ鶏鉾町ハ立時刻迄ニ届書未調製ニ付翌朝立町ヨリ直接提出セラルヽコトニテ立町分ハ請書及請求書ノ二通ヲ提出ス

ナカガワ

七月十日

御届

大正十二年七月九日付京都市指令庶第三一四〇号ヲ以テ御下付相成ル補助金ハ株式會社三井銀行京都支店特別當座預金トシテ保管置様可被致ニ付御承認相成度此段及御届ニ也

大正十二年七月十日　鉾（又ハ山）町代表者　氏名　㊞

京都市長馬渕鋭太郎殿

追テ右ハ課長不在中ニ付難波宗治殿ヘ相渡シ来ル旨下付ありたく度旨仰せに退廳ス

七月十日

市会議員、市理事者招待状封筒表書ヲナシ當番町ヘ回付ス

七月十一日

市役所庶務課ヨリ電話懸リ山町鉾町代表者住所ノ尋合ニ接シ各町ノ住所回答ス

午後六役所會計課ヨリ補助金ノ儀明十二日午前九時三十分ヨリ午後一時三十分迄ノ間ニ受付ス依テ通知書及印鑑持参セラレタキ旨ノ通知各町ニ到達ス

七月十二日

前日ノ通知書文面ニ據ルトキハ各町毎ニ市役所（出頭）ニテ補助金ヲ受領スベキ事トナリ多数人ノ煩ヲ招クノ虞アリテ去ル七日庶務課長ノ領解ヲ得タル如ク代表者一人出頭シ補助金ノ交付ヲ受ケ而シテ之ヲ各町ニ配分スル様ノ取計ヒヲ立ツ為課長自宅ヘ（早朝事トシテ出勤前ナル自宅ヘ通電ス）電話ヲ以テ其旨ヲ通セシ所領承セラルルヤ各町ニ到達セル通知書（ハガキ）ヲ纏メ且豫テ十日ニ纏ヲコル各町ノ領収書ヲ持参ノ午前十時三十分會計課（出頭シ鉾九ケ町分補助金弐万七百円ニ受領ス猶併テ庶務課（立寄難波氏（課長市会ヘ出席ノ為）ニオヒシ此程ノ労ヲ謝シテ退廳直チニ右補助金各町ヘ配分ス

因ニ山町ハ本日午後二時聞取ニ付テ各町代表者市役所ニ参集セラルヽ故立時ニ補助金受領セラル事ト打合セ済

去月去日山鉾町聯合会費用ハ去月末日夫々支拂ヲナシ

ナカガワ

其計算書ヲ當番所（回付シテ）徴収方ヲ依嘱シ置キタル處本日全部徴集済ノ故ヲ以テ取替金ノ還附ヲ受ク其控書左ノ如シ

一金壱百参拾九圓拾壱銭　　中村橋支拂

内訳　一三四、〇〇　御膳世一人分　三、〇〇（酒肴　御膳三人分）

〇、七五　サイダー　六、九〇　折箱代

四、〇〇　配膳二人　〇、四五　使

一金拾五圓八拾壱銭　　白雇九名三食代

一金壱　圓　〃　　八坂神社祈祷料

一金九　圓　〃　　諸祝儀心付

（ナカガワ）

計金壱百参拾六圓九拾壱銭

内三分ノ一　鉾町負担金五拾五圓七拾六銭

右鉾町負担金ヲ十人ニ割当（鶏鉾町ニ名出席ニ付）各町

金五円五拾七銭宛徴集ス（外ニ鶏鉾町ニ取替ニ係ル市会議員報酬并ニ封筒印刷代ヲ割当ル町ニテハ夫々ツヽ）

本日左記案内状ヲ観覧参与九枚ヲ同封加入シ左記（発送ス但シ発送方ヲ當番町ニ委托ス市理事者分ハ公ニ朝出頭之際難波氏ニ渡シ配分方依頼ス

市長　助役多久安信殿　収入役五島藤一殿　庶務課長

小西辨次郎殿　教育係長後藤末久殿　庶務課在勤

（補助金ノ件ニ付骨ヲ取ラレタル）難波宗治、大久保、両氏

（イ）

八月七日

清々講社幹事宛壱通、左前幹事大森義一殿、八坂神社宮司近見正風殿、市会議員五拾弐名

拝啓　京洛ノ盛夏ニ九月ヲ味フベキ祇園會ト相成ル処愈々御健祥奉賀ス扨テ例年之通リ山鉾建設致シ之ニ付来ル七月十五日正午ヨリ十六日中（両夜間共）随時御観覧ノ栄ヲ得度此段御案内申上ル

大正十三年七月　日　祇園會鉾町會

清々講社幹事宛本日補助金受領ノ旨巡書面通知旁々挨拶状ヲ発送ス

豫テ三井銀行宛朝預金トナシ置キタル各鉾町信認金本

（ナカガワ）

日満期ニ付左之通リ各町ニ拂戻ス

一金壱百圓也　　信認金

一ヶ　弐圓八拾五銭　　年六分ノ六月間利子内ハ五銭分得税引

計金壱百弐圓八拾五銭ヲ割戻シ

右信認金割戻シト同時ニ各町文立ニ取交シタル契約書ノ返還ヲ受ケ本請願ニ付テノ事務一段落トナリタルヲ以テ昨年互選ニ依ル委員ノ解任ノ旨各町ニ通告ス（然ルニ其後次々ニ用件続発シ実際上辞任不可能ト為リ従来事務ヲ執レリ）

追テ未解決ノ清々講社ニ対スル補助増額申請ノ件ハ本年五月一日左社幹事ニ面談シ申請ニ対シ左ノ四日四名アリタル文面ニ依ルモ未ダ九月左講社々長会議ノ際熟議セラレ答

三付以件ニ関シテハ当番町ヨリ適当ノ交渉ヲセラレタシ委任シテ本請願ノ事務ヲ打切トス

市役所庶務課長小西辨次郎氏ヨリ庶七第六七号ニ以テ山鋒補助金交付条件ニ違反スル向有之様被存候ニ付該条件遵守セラルベキ様注意方通牒ニ接ス（至一支面ノモノ各町ニ到達ス）

八月九日　清々講社幹事宛左記請願書ヲ提出ス

請願書

八月九日　昨大正五年七月十六日及同年十二月九日付書面ヲ以テ請願ニ係ル山鋒巡行補助増額之件ニ付更ニ本年度

一日各町ニ窮状陳述ニ係ル如ク二付明大正十三年ヨリ従来御下付相成居ル補助金ニ対シ五割御増額相成度此段請願ニ及ブ也

大正十二年八月九日　鋒當番町　河添秀次郎㊞
鋒町委員　清水良亮㊞
山當番町（大鋸山町 赤林）　友七㊞
山當番町（鯉山町 澤）　田あい㊞

清々講社幹事御中

午後一時市役所庶務課ヘ出頭ニ去ル七日通牒ニ接シタル件ニ付課長ト協議ヲ為ス旨通シタルニ課長東上中ニ付主課吏

員難波大久保両氏ト協議之上追テ課長帰京之上ハ電話ヲ以テ通知スル様依頼シ其上課長ト面談スル事トシテ退廳

朝市役所ヨリ電話掛リ課長帰洛ノ旨通知アリ依テ明十四日出頭面談スベキ旨申込ム

午前十時半市役所ヘ出頭シ課長ニ面談スニ三ヶ所ヨリ届書提出セラレタルモ直接山鋒ニ関スル修繕ト認メ難キモノアリ依テ補助金支出ニ就テハ直接山鋒ニ関係アル修繕ノミニ支出セラルル様注意セラレタルノ事ニ付其範囲ニ付慮答ヲ重ネ可及的廣義ノ範囲ニ解釈セラレタル旨陳情ス因ニ課長ガ支途ニ付テ特ニ注意セラルルハ下付初年度ニ於テ条件ニ対

シテ違反ノ向アル時ハ為ニ市会議員ニ反対ノ動機ヲ與ヘ今後補助金ノ下付否決セラレンヲ慮リ居ラルルニ依ルヲ以テナリ猶明年度修繕豫算書ヲ可成九月三十日迄ニ提出セラレタルノ希望ヲ述ベラレタリ之ハ市会ニ於テ慮答ノ参考ニ供シ度キ為メトノ事ニ付之ヲ諒シ午後一時半退廳

午後函谷鋒町吉川氏放下鋒町清水氏ハ先ニ提出セラレタル届書不備ノ点アリ訂正再提出方ヲ通知ノ為訪問ス

鶏鋒町ヨリ先キニ提出セラレタル修繕明細書記載ノ分ハ鋒修繕ト認難ク従テ市当局ノ承認シ難キ旨通告アリタル事ヲ報告ノ為河添氏ヲ訪問ス

岩戸山町竹内氏ヲ訪問シテ之ニ町修繕ニ関スル届書ヲ式ニ関スル報告及当局ノ意志ヲ傳達ス

山蕃番町本賊山町森友七氏ヲ訪問シテ今朝課長ノ布達ニ因ル明年度修繕見積書ノ提出方ヲ依嘱ス（但シ山町ニテ町ニ併テ近日全町ヨリ提出アリタル修繕届書ノ不承認ニ関スル市当局ノ意志ヲ傳達ス

八月十七日

各鉾町及山蕃番町鯉山町沢田右衛門課長ヨリ依嘱セラレタル明年度修繕見積書ノ提出方ヲ通達ス

九月十七日

本日迄ニ還リタル明治三年度山鉾修繕見積書ヲ市役所ニ提出ス

提出セル見積書町別 長刀鉾町（三五九円）北観音山町（九〇〇円）

南観音山町（五一〇円）橋弁慶山町（六八〇円）行者山町（三〇〇円）

常明山町（五〇〇円）鯉山町（一八〇円）孝子山町（五〇〇円）八幡山町（五〇〇円）

山伏山町（五七六円）函谷山町（一〇五円）霰天神山町（三〇三円）太子山町（三六〇円）以上十三ケ町ハ明年度修繕ナキ見込ノ由其他十二ケ町ハ未提出ニ付不明

昨年未決件ニ関スル決済左ノ如シ（但シ法令ニ替仕掛ケ）

一 参圓也　請願書作製船岡氏謝儀

一 九　お　右用紙美濃罫紙十枚代

一 壱圓五拾お　三月三日法令廃止ニ伴フ山鉾聯合会開催ニ際シ炭料ト心付

一 参圓弐拾お　右当日幕子代　相炭屋扱

十月十日

一 参拾銭

一 壱圓八拾銭　市参事会員坂名埜投票印手代　市会議員坂名埜投票用紙刷印代共十枚分

一 壱圓五拾九お　右発送郵券五拾三枚分

一 九拾五銭　半紙罫目枝　枝家　封筒代等

一 弐圓也　大橋好造氏ヘ進物菓子代

計金拾四圓四拾参銭也　大正十二年九月十三日河添氏ヨリ御立替金相受正ニ収受ス因ニ鶏鉾町御立替ノ分ヲ合シテ一ケ町割当負担額金弐圓七拾六銭

昨四日夜清々講社幹事ヨリ補助金ノ件ニ付協議致シ度旨ノ電話参集方ヲ申越サレタル由ノ處不肖当時病気

十月七日

療養中ノ為メ遺憾欠席ス河添氏出蕃番町森友七氏澤田氏以上三氏御出席其要点ハ去月一日関東地方ニ突発シタル震災為挙国一致諸事節約ニ折柄神事費増徴ハ全然不可能場合ニ付明年度補助金ハ本年度通リ金額ヲ以テ承認セラレ度シトノ事ニ付遂テ協議シ七日中ニ何分ノ回答ヲナス旨ヲ告ケテ散会セラレタル由本日河添氏ヨリ御報告ヲ受ケ依テ明後七日午後一時ヨリ於拙宅総会ヲ開キ之カ対策ヲ講ズル事ト河添氏ト合議ス

午後一時ヨリ於拙宅鉾町会議ヲ開ク出席者　長刀　国井氏　函谷　吉川氏　鶏　河添氏　月　橋本氏　放生　法水氏　岩戸　竹内氏　北観音　中西氏

南觀音
桝井氏外、山会所松村氏、山田代表田中氏協議要項左の如し

一、震災の為神事費増徴不可能、為後で補助金増額相成難き場合は明十三年度神事山鉾巡行御遠慮可申事

一、震災後諸事節約を要する際に付明後十年度に於て五割補助増額相受ける事と約して明年度は現在の三割五分増し三ヶ豫算御作製を請願の事（以上法人講社より）

一、去月廿七日市役所出頭、際庶務課長より毎年豫算に補助金を計上する煩を省き五年或は十ヶ年計劃として修繕を要する見積書を提出する度ごとに対し右期間内毎年一定の補助金を交付する様取計の方相互手数を省き好都合と思考する旨

（イ）

ナカガワ

月八日

トの件に付協議結果今早急に長年月に渡る修繕見積作製不可能の事情もあり且又震災後諸事節約敢て緊縮を要する際に敢て巨額補助金交付請願をなすも不穏に付明年度に於ては本年通り補助金交付相受ける事を請願する事と協議決定す

昨日協議に基き左記文章を作製し調印を乞む

去る八月九日附請願書に対し本月四日御内示を蒙り実に就て直ちに山鉾町会総会を開き協議致す度左記如く決議仕実に御賢察の上可然御取計被成下度旨御内示を上ぶ

一、御内示の趣拝承仕実に就ては明後大正十四年度に於て本年

度補助金額の五割増額を御承認下さる事を得ば明大正十三年度補助金に対する増額申請歩合を貳割五分に改訂の上請願する事

一、関東地方震災後故を以て神事費増徴相成難く従て補助金の増額全然不可能、御事情実に止む明年度に限り震災為山鉾巡行を御遠慮申上ず休止可致事と御協議

上御決定相成度旨

右御回答の趣旨を以て協議の上也

大正十二年十月九日

鉾町委員　河添秀次郎　印
鉾町委員　清水良亮　印
山会長　松村喜右衛門　印
山当番町　鯉山町　吉田あい　印
山当番町　木賊山町　森　友七　印

清々講社幹事御中

（イ）

ナカガワ

十月九日

山会長代理田中氏、鉾町氏、表法水五人同道八坂神社出頭して法人講社幹事寺村氏、平井氏に面談し前記請願書を提出して且口頭を以て事情陳述する処、講社幹事に対し左記願書を提出、将来の事は考慮を煩せしむる希望にて之が方法等に就ては意見を交換して退散す

請願書

茲に敢て書を以て右に上り例年当八坂神社私祭に資する山鉾巡行の将来に関する件に就て切に官幣大社八坂神社宮司閣下並に氏子代表機関たる清々講社幹事諸賢の考慮を仰かんとす

此古典的ニテ優雅ナル祇園會山鉾巡行ハ唯ニ氏子ノミナラズ全市民等シク渇仰スル所且亦本市繁栄策ノ一トシテ見ルモ其價値没スベカラズサレバ私祭當日ノ如キ國ノ遠近ヲ問ハズ洋ノ内外ヲ論セズ未觀スル群衆其数幾十万ナルヲ知ラズ以テ其壮觀タルヲ他ノ神社私祭ニ比スルニ大ニ其趣ヲ異ニスルアルハ諸賢ノ夙ニ知悉セラル所ナルベシ然ルニ之カ巡行ニ要スル費額ハ累年嵩ミ来リ毎年受クル補助金ヲ控除スルモ尚其費額甚大ナリ而モ現在ノ山鉾ハ文政天保ノ頃大修繕ヲ施シ其後小修繕ヲ加ヘツヽ現今ニ至リシモノニテ開未百年ノ星霜ヲ閲シ破損ノ個所頗ル多ク近ク大修繕ヲ加ヘザレバ巡行ヲナシ能ハサル状態ニアリ然ルニ此大修繕ニ要スル費用ト毎年巡行ニ要スル費用トヲ僅小ナル山鉾町ノミノ負担ニ堪ヘザルニ至難ノ事ニテ此儘ニ推移セバ近キ將来ニ於テ該神事廃止ノ止ムナキニ至ラン事必然ナリ字内無双ヲ誇タル此古典ノ亡ビシ後ノ本市夏季ノ寂寞ニ想到セシカ轉タ感慨ニ堪ヘザルモノアラン況ンヤ敬神ノ道ニ背ク所アルニ於テヲヤ

冀クハ諸賢ノ裁量ニヨリ之カ山鉾町ノ山鉾巡行ニアラザル所以ヲ諒セラレ氏子一般ノ協力ニ俟チテ当神事ノ永久存續ヲ得ベキ方策ヲ今ニ於テ建テラレンコトヲ茲ニ山鉾町代表者連署ヲ以テ伏テ懇願ニ堪ヘザル所ナリ

大正十二年十月九日　山町会々長　松村甚右衛門㊞
鉾町会幾者　清水良亮㊞

官幣大社八坂神社宮司　辺見清風殿

清々講社幹事御中

蘆刈山町提出ニ係ル明年度修繕見積書提帯庶務所ヘ出頭ニ
去ル七日決議明年度豫算ハ本年度通リ補助金計上方
依頼ス継続ニ係ル見積ハ目下作製不可能故ヲ併テ申告ス
明年度修繕見積書未提出ノ町アリ至急取纏メ方ヲ依頼
セラル仍テ回文ヲ以テ未提出ノ十四ノ町ヘ通告ス

十月廿日

十月七日

去ル三日以来未提出町見積書提出方督促ニ漸ク左記五ノ町ヨリ纏リタルヲ以テ依頼文ヲ添ヘ取敢ズ庶務課長ハ西殿宛郵送ス尚鶏鉾町ヨリ修繕済届書提出セラレタルヲ以テ回封ニテ回送ス

鶏鉾（三一五円）放下鉾（一七三〇円）岩戸山町（九〇〇円）但シ車ニ枝及真榊代三三二円ノ七ノ内一一三一〇七円町費金ヲ支出シ一二〇〇円ハ来年補助金ヲ充当シ九〇〇円トナル因テ左町ハ昨年ノ新修繕ハナキ由ナリ

船鉾町（水引一〇〇〇円　提灯一五〇〇円　計二五〇〇円）十三年以後十五年迄ノ継続事業（未ダ四月鉾町（六〇〇円　常掛雨具綱等修繕費）

去ル百左記請願書ヲ作製シ各町ノ調印ヲ求メタル處本

日金部調印完了ノ上後ニ時市役所ヘ出頭シ提出スル日時ニ
伯牙山町明年度修繕費(一〇〇円)書及茶諸請求書以上六
通提出ス因ニ左記各町ハ明年度修繕ヲ為ス旨當番町ヨリ通
告アリタル故其由書面ヲ以テ申告ス
修繕ヲ為ス町　鈴鹿山　保昌山　自樂寺山　木賊山　郭巨山　占出山
油天神山　岩戸山

祇園會山鉾ニ関スル補助金下附請願書

公務御多繁之際敢テ書ヲ上リ祇園會山鉾巡行ノ神事ニ
供スル山鉾ノ保存維持并ニ修繕ニ要スル費用ノ件ニ関シ重
ネテ閣下ノ御採擇ヲ仰カントス

昨大正十年十二月二十八日附ヲ以テ之ニ関スル補助金ノ下附請
願セシ處幸ヒニ閣下ノ御裁量ニヨリ本年七月九日附指
令ニヨリ該補助金ヲ下附セラレタルコトハ我等山鉾町ノ最
モ欣幸トスル所ナリ然レドモ之ガ保存并ニ修繕ニ関シテハ
唯ニ本年ヲ以テ終結スルモノニアラズ今後年々修繕維持
ヲ要スルモノナルコトハ賢明ナル閣下ノ夙ニ知悉セラルル所ナル
ベシサレバ先キニ請願ノ當初ニ於テ毎年之ガ補助金ヲ下附
セラレンコトヲ懇願セシ所以ナリ
冀クハ明大正十三年度ニ於テモ鉾九基ニ對シ金貳阡七百
圓山拾九基ニ對シ金壱阡九百圓合計金四阡六百圓ノ市

公費補助セラレンコトヲ茲ニ該補助金使途明細書ヲ添
附シ山鉾町代表者連署ヲ以テ伏シテ懇願ニ堪ヘザル所
ナリ
大正十二年十月十日　山鉾町代表者連署
京都市長　馬渕鋭太郎殿

十月十三日　市役所庶務課ヨリ鶏鉾町提出ノ修繕届ニ不備ノ点アルニ付
書替提出方申越サレタル故即時同町河添氏ヘ通告ス
十二年一月四日　山鉾補助金交付条件ノ五項ニヨル申告書ハ九日迄ニ提
出方各山鉾町ヘ通達ス
一月十日　申告書取纏メ市役所ヘ持参ス猶岩戸山町霰天神山町届

三月十三日　書再調提出方傳達相成ヲ夫々即時傳達ス
本年度豫算并委員会ノ形勢不利ナル趣傳聞ス依テ山鉾町ノ
協議会ヲ開催シ度ハ坂神社・法々講社幹事・各鉾町・山町
当番ヘ明十四日八阪神社ノ務所ヘ午後二時参集方通達ス
十四日　午後二時八坂神社ノ務所ニ於テ集会開催ス出席者左ノ講
社ヨリ孝行・半井・中林・三氏　鉾町ヨリ函川侯氏　鶏河添氏　放下
法水氏　岩戸　北澤氏　北新　吉田氏　郭巨　法水氏　法々講
因氏以上拾壱名市会議員委員　陳情方ノ件　協議ニ各自
知己ニ據リ運動スル事トシ外種々意見ヲ交ヘ五時散会ス
席上法々講社ヨリ補助金増額之件発会セタルニ左ノ如ク増

額ニ付キ上ト決議セラレタル由回答アリ

鉾長基ニ付甲四百六拾七円　乙四百八円　雑費五拾円

山長基ニ付八拾四円　但昨年補助金ニ対シ長割ニ付六厘

ノ割合ノ増額トナル

猶本日ノ欠席者ニ対シテハ書面ヲ以テ通告ス　因ニ本年市会豫

算委員氏名左ノ如シ　苗加房三郎　西村金三郎

野村吳三郎　鍋田直次郎　西尾林太郎　田畑庄三郎

前田藤吉郎　野村権右衛門　百木伊三助　伊藤吉三助

田中新七　小西嘉一郎　伊藤平三　時岡利七

安田種次郎　以上十五氏

廿五日　法ニ講社聯事寺村氏ヨリ市会ノ模様ニ付テ通告ヲ受ケ且ツ委員歴訪ニ就テ御注意ヲ承ル

廿六日　八坂神社宮司ヨリ豫算委員ニ對スル懇談ニ付テ種々御意見承ル

廿九日　本日市会ニ於テ大正十三年度補助金可決セラル

卅日　市会ニ於テ可決ノ旨各山鉾町ヘ通告ニ併テ法ニ講社聯事ヘ及八坂神社宮司ヘ協賛ノ礼状送ス

六月五日　八坂神社ニ参拝祈念ヲナシ中村楼ニ於テ第二回山鉾聯合会ヲ開催ス　当日山鉾町出席者廿六ヶ町（長刀鉾及山ヶ町ニテ町内不在）外ニ板村出会長及来賓国行俊ニ氏出席セラル

備考豫ニ左記諸氏ヘ招待状発送セシニ何レモ差支ノ為欠席セラル　馬渕市長　小西庶務課長　難波宗法院　吉村法法講社聯事　以上

六月廿一日　当日貴月明細ハ当番町記録アリ

市役所ヨリ市指令庶発第七号五弾ヲ以テ補助金左ノ通

（山ノ部百円）交付スベキ旨ヲ通告アリ仍テ該指令書ヲ各鉾町ヘ配付ス　同時ニ請書　誌求書　補助金管理法届書ヲ

六月廿七日　ニ面ヲ至急提出セラルベキ様ニ各町ヘ通告ス

去ル廿一日各町ヘ通告セル書類漸ク全部揃ヒタルヲ以テ之カ提出ノ為市役所ヘ出頭庶務課ヘ該書類ヲ提出ス

請書（左記文案通）請求書及保管法届書（昨年提出ノ

書式通）南観音山町ガ住友銀行ヘ預金セルノ外ハ全部三井銀行ノ三通充　但シ左記四ヶ町ハ保管届書提出ヲ省ス（即チ修繕費支出方申請ノ書類ヲ添付セリ）

請書（文案写）

大正十三年六月廿一日附京都市指令庶発第七号五弾ヲ以テ鉾修繕費補助金参百円御交付相成候ニ就ハ大正十二年七月九日附京都市指令庶発第弐百四拾弾ト同一条件ヲ確ニ遵守可致御請ス也

大正十三年六月廿七日　町代表者　氏名　㊞

京都市長馬渕銃太郎殿

同日修繕個提出所左記通

一函谷鉾町　五百圓　内訳　参百円　去年度補助金支出　弐百円　今年度補助金支出
残百九拾七円七拾五銭　町負担

一月鉾町　五百八拾円　鉾雨覆角胴巻四枚　新調
内参百円　大正十三年度補助金支出　弐百八拾円　当年補助金
内支出残金ハ三井銀行ヘ預金ス

一鶏鉾町　四百圓　胴巻四枚水引巻枚修繕
内参百圓　本年度補助金　弐拾三円　前年度補助金支出
残金七拾七圓　町庫ヨリ支出ス

七月一日

一岩戸山町　弐百弐拾五圓　内訳　弐百圓　本年度補助金支出
内壱百弐拾五圓　町庫ヨリ支弁
残壱百弐拾五圓　昨年度本年補助金支出

市補助金交付スベク出願方通告ヲ受ケタルヲ以テ各町ヘ領収書ヲ取纏メ市役所出納課ヨリ金四百八拾八百圓ヲ受取リ各町ヘ配分ス　領収書完ク昨年ハ収入役完ノ度本年ハ庶務課照合ノ結果市長宛トナシ提出ス

油天神山町岸田平助殺印鑑不備ノ為町ヲ除キ四百五百圓受領ヨリ行セル湯浅氏ノ七百圓山田氏ハ百圓相次ス岸田氏分ハ当番山田氏ヘ依托シ書類提出シ補助金受領セラルヘ

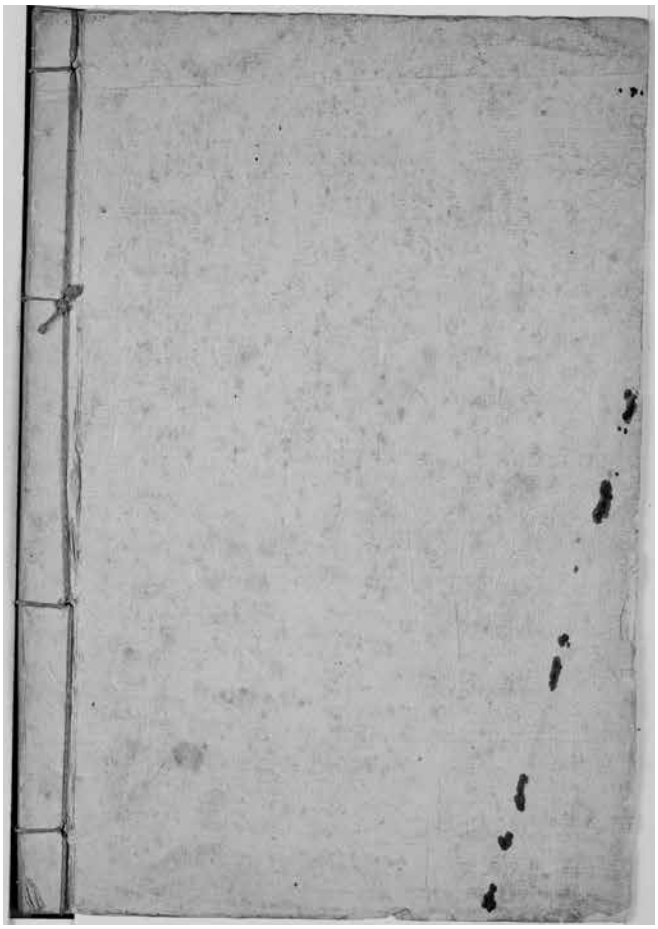
七月八日

様取計フ

去ル六月廿七日附請願ノ左記修繕ニ付家記書類三通市役所ヨリ交付セラルル仍テ各町ヘ配付ス因ニ同日提出ニ係ル月鉾雨覆修繕件本届ニ付電話ヲ以テ交渉ス課長ト談合之上追テ回答ヲナス旨ノ返事アリ届出保留

鶏鉾町　参百弐拾参圓　岩戸山町　六百圓（以上二町共補助金残金ヲ）

保存出町山組ニテ本柄桙修繕金八拾五圓参拾銭補助金支出方承認請求書提出市役所ヘ出願ス傳達ス

同時ニ月鉾町前記届出件ニ付交渉ノ為出頭ス

○以後八日誌ハ引続キ清水氏ニ於テ記録中